

床尾中央遺跡

平成6年度交通安全施設等整備事業床尾平出線工事
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

1995

長野県塩尻市教育委員会

床尾中央遺跡

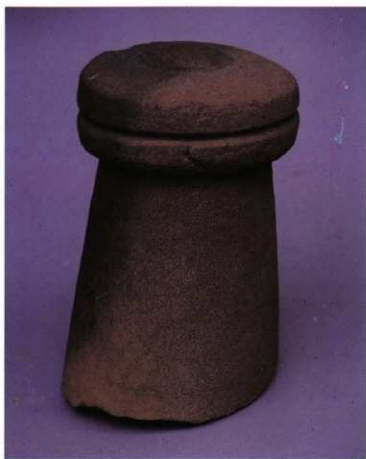
平成6年度交通安全施設等整備事業床尾平出線工事
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

1995

長野県塩尻市教育委員会



第7号住居址石棒出土狀態



第7号住居址出土石棒



第19号住居址出土注口土器



縄文時代中期中葉の土器



縄文時代中期後葉の土器

序

床尾中央遺跡は奈良井川右岸の扇状地上にあり、縄文時代から中世に至る遺物が採集され、以前からよく知られていました。このたび交通安全施設等整備事業床尾平出線工事によって遺跡の一部が破壊されることになったため、埋蔵文化財保護の立場から工事に先立ち発掘調査を行うことになりました。

発掘調査は4月から5月にかけて行われ、おかげをもちまして好天と地元の方々の深い御理解にも恵まれて作業も順調に進み、数多くの成果をあげることができました。縄文時代の集落址や中世の住居址など貴重な資料を得ることができ、同地区の古代史説明に大きな前進をもたらしたものといたしましょう。

終わりにあたり、調査実施に際して多大な御理解、御協力を下さいました関係者の皆様、発掘作業に携わっていただいた参加者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成7年3月

塩尻市教育委員会
教育長 平出友伯

例言

1. 本書は、平成6年度交通安全施設等整備事業床尾平出線工事に伴う床尾中央遺跡（長野県塩尻市大字宗賀所在）の発掘調査報告書である。
2. 現場での調査は平成6年4月14日から5月25日まで実施した。遺物および記録類の整理作業から報告書作成は、平出遺跡考古博物館において平成6年4月から平成7年3月まで行った。分担は、次のとおりである。
遺構・整理 トレース：小口 遺物・洗浄・註記：一ノ瀬、古厩 土器復元：市川、一ノ瀬、古厩
実測・トレース：山本、小口、小林 写真：小口
3. 本書の執筆は第二章第2節、第三章第3節3を小林が、それ以外を小口がそれぞれ分担した。
4. 中世の出土品については、原明芳氏から御指導を得た。銘記して感謝申し上げたい。
5. 本調査の出土品及び諸記録は、平出遺跡考古博物館で保管している。

目次

序	
例言	
第I章 調査状況	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査日誌	2
第4節 遺跡の状況と面積	3
第II章 遺跡周辺の環境	4
第1節 自然環境	4
第2節 歴史的環境	4
第III章 調査結果	6
第1節 調査の概要	6
第2節 遺構	6
1. 縄文時代の住居址	6
2. 中世の住居址	10
3. 土坑	10
4. 集石	10
第3節 遺物	22
1. 縄文時代の遺物	22
(1) 土器	22
(2) 石器	34
(3) 土製品	35
2. 古代の遺物	35
3. 中世の遺物	63
(1) 第1号住居址	63
(2) 第2号住居址	63
第IV章 調査のまとめ	64
写真図版	

第I章 調 査 状 況

第1節 発掘調査に至る経過

- 平成6年4月5日 市土木課、市教育委員会により調査箇所についての現地協議
4月7日 埋蔵文化財床尾中央遺跡の発掘調査について（通知）
5月26日 床尾中央遺跡発掘調査終了について（届）
5月26日 床尾中央遺跡埋蔵文化財の取得について（届）
6月15日 床尾中央遺跡埋蔵物の文化財認定について（通知）

発掘調査計画書

1. 発掘調査地：塩尻市大字宗賀床尾
2. 遺 跡 名：床尾中央遺跡
3. 発掘調査の目的及び概要：平成6年度交通安全施設等整備事業床尾平出線工事に先立ち、300㎡以上を発掘調査して記録保存を図る。遺跡における発掘作業は平成6年6月30日までに終了する。
調査報告書は平成7年3月25日までに刊行するものとする。
4. 調査の作業日数：発掘作業10間 整理作業20日 合計30日
5. 調査に要する費用：1,500,000円
6. 調査報告書作成部数：300部
7. 発掘調査の主体者及び委託先：塩尻市教育委員会

第2節 調 査 体 制

団 長	平 出 友 伯	(塩尻市教育長)					
担 当 者	小 口 達 志	(長野県考古学会員・市教育委員会)					
調 査 員	小 林 康 男	(日本考古学協会員・市教育委員会)					
〃	小 松 学	(長野県考古学会員・市教育委員会)					
〃	市 川 二三男	(長野県考古学会員)					
〃	山 本 紀 之						
発掘参加者	赤 沢 捨 治	内 川 初 雄	小 沢 甲 子 郎	北 沢 喜 子 雄	小 泉 忠 行	小 松 静 子	
	小 松 千 元	小 松 幸 美	小 松 義 丸	清 水 年 男	高 橋 阿 や 子	高 橋 鳥 徳	
	藤 松 謙 一	山 口 仲 司	由 上 は る み	一 瀬 文	大 和 廣	古 巖 馨 子	
事 務 局	小 野 克 夫	(市教委総合文化センター所長)					
〃	松 崎 宏 征	(市教委文化教養課長)					

- 〃 小松重昭 (文化教養担当係長)
 〃 小林康男 (平出遺跡考古博物館長)
 〃 小口達志 (平出遺跡考古博物館学芸員)
 〃 小松学 (平出遺跡考古博物館学芸員)

第3節 調査日誌

平成6年度

- 4月14日(休) 晴 本日から作業開始。小林館長から挨拶あり、事務局から発掘日程・作業方法の説明があった後、機材準備、テントの設置。1~11グリッドの掘り下げ、遺構検出作業を開始する。
- 4月15日(金) 晴 引き続き、1~11グリッドの掘り下げ、遺構検出作業。1~3号住居址検出・掘り下げ。
- 4月16日(土) 晴 1~11グリッド完掘、全体写真撮影。11グリッド出土の称名寺式土器取り上げ。
- 4月17日(日)・18日(月) 定休日。
- 4月19日(火) 雨 雨天のため中止。
- 4月20日(水) 晴 1号住居址拡張、掘り下げ。12~24グリッド遺構検出作業。4~9号住居址掘り下げ。3~11グリッド埋め戻し。
- 4月21日(木) 晴 1・4~10号住居址掘り下げ。14~32グリッド掘り下げ、遺構検出作業。
- 4月22日(金) 晴 1・5・6・12~16号住居址、13・30グリッド掘り下げ。
- 4月23日(土) 晴 1・18号住居址掘り下げ。
- 4月24日(日)・25日(月) 定休日。
- 4月26日(火) 晴 1・2号住居址完掘。写真撮影・平面図化。5・16号住居址掘り下げ。
- 4月27日(水) 晴 5~8号住居址平面図化。12~18号住居址、38・39グリッド掘り下げ。
- 4月28日(木) 雨 雨天のため中止。
- 4月29日(金) 雨/晴 19号住居址掘り下げ。
- 4月30日(土)・5月9日(月) 定休日。
- 5月10日(火) 晴 16・18号住居址掘り下げ。
- 5月11日(水) 曇/雨 4・5・16~19号住居址掘り下げ。雨天により午後中止。
- 5月12日(木) 曇/晴 18号住居址掘り下げ。
- 5月13日(金) 晴 18号住居址完掘、平面化。15・5・20号住居址、30・31・36グリッド掘り下げ。
- 5月14日(土)・16日(月) 定休日。
- 5月17日(火) 晴 7号住居址焼土中から、彫刻のある石棒出土。4・12・14・16・18・19・21号住居址掘り下げ。
- 5月18日(水) 晴 30~41グリッド平面図化。17・19・20号住居址内ピット掘り下げ。
- 5月19日(木) 晴 20~29グリッド平面図化。
- 5月20日(金) 晴 30~41グリッドのレベリング。
- 5月21日(土) 晴 埋壘、炉体土器取り上げ。土坑掘り下げ。
- 5月22日(日)・23日(月) 定休日。
- 5月24日(火) 晴 土坑掘り下げ。
- 5月25日(水) 晴 16号住居址西側に拡張、完掘。本日をもって現場における作業を終了する。
- 整理作業は、5月~平成7年3月、平出遺跡考古博物館において実施され、出土品、記録類の整理、報告書の図版作成、原稿執筆作業をもって終了。

第4節 遺跡の状況と面積

遺跡名	場 所	現 況	種 類	全体面積	事業対象面積	調査面積	発掘経費
床尾中央	塩尻市大字宗賀	畑 地 果 樹	包蔵地	15,000㎡	400㎡	350㎡	1,500,000円

第1表 発掘調査経過表

月 遺跡名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	主 な 遺 構	主 な 遺 物
	床尾中央	14	25	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-right: 10px;">発掘</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; flex-grow: 1;"> 遺物整理・図面作成・原稿執筆 </div> </div>										縄文時代中期 住 居 址 20 中世住居址 3 土 坑 155 集 石 4

第II章 遺跡周辺の環境

第1節 自然環境

床尾中央遺跡は、塩尻市大字宗賀床尾に所在する(第1図)。松本平最南端に位置し、北流する奈良井川の扇状地上に立地する。遺跡のある床尾地区は南に鳴雷山(1093.5m)がそびえ、東に八幡山、西に石灰山等の山々に囲まれ、北に緩やかに傾斜して桔梗ヶ原台地に続いている。

標高は755~765mで、桔梗ヶ原の向こうに北アルプスの峰々を望むことができる。遺跡の東北には山容の美しい比叡ノ山があり、その北には国史跡の平出遺跡が広がっている。



1 平出 2 平出古墳群 3 慈母寺 4 下村
5 山瀬 6 巖ノ神 7 床尾神社 8 床尾中央

第1図 床尾中央遺跡位置図

第2節 歴史的環境

床尾中央遺跡周辺の床尾・平出・洗馬には16ヵ所の遺跡の存在が確認されている。

旧石器・縄文草創期の遺跡はいまだ未発見で、縄文時代早期がこの地域としては最古の遺跡である。平出・下村・野辺沢の各遺跡から早期前半の押型文土器が採集され、平出・野辺沢では早期後半の条痕土器や次の縄文前期諸磯式も出土している。この早期・前期は遺物の出土のみで遺構の発見は未だないが、続く縄文中期に入ると、平出・床尾中央で多くの住居址が発掘されており、この地域を拠点として大集落が発達したことが分かる。また、16遺跡中9遺跡で中期の遺物が出土しており、かつてない面的な広がりをしめしている。縄文後期には、平出で2軒の敷石住居址が発見されており、後期土器や後期に属すると考えられる石剣・岩偶の採集されている遺跡は下村・洗馬宿裏など6遺跡に達している。市内では中期から後期に移行すると、遺跡が極端に減少する傾向がある。しかし、この床

尾中央遺跡周辺ではそれ程大きな変化が現れないという特徴が認められる。晩期には平出で土器が採集されているのみである。

弥生時代には、平出・洗馬宿裏の2遺跡で遺物が出土しているのみである。小河川の発達に乏しい環境は米作りには不向きであったと考えられる。

古墳時代には、平出の大集落と平出古墳群があるが、これ以外には床尾中央遺跡での土器の出土がある程度である。

平安時代には、13ヵ所の遺跡があるが、平出を除くと今のところ遺構の発見は無い。今後の発掘によって崇賀郷に含まれていたこの地域一帯の実態が明らかにされるものと期待される。なお、平出の緑釉水瓶、床尾中央の瑞花双鳥八稜鏡、野辺沢の毛抜型太刀・瑞花双鸞八稜鏡などの出土品はこの地域にかなりの有力者が存在していたことを示している。

今まで余り注目されていなかった中世では、今回の床尾中央での住居址の発見、洗馬神明の内耳土器の出土など次第に資料も整いつつある。考古学的成果が、その実態解明に果たす役割も次第に大きくなってきていると言えるよう。



塩尻でじょうもん式土器三点を発見

○塩尻市調査隊発掘調査で、この地へ、じょうもん式の土器三点が見つかった。土水事、事なかみつけたもので、場所は塩尻市西側の市道わき、歴代遺跡といつて50m。

○日本考古学協会会長宮野氏(塩尻市片丘分団校長)の指導で、地下約一坪のところからほとんど原形もつかない土器を掘りだし、三箇のちいさな欠片のみは刀型で、高さ五センチ、口の部の直径は三・五センチ。

○原氏の説によつて、この種の土器は加賀川式といひ、安曇遺跡に多いといふ。これらの土器は、いずれも並く出土者も切欠も保存する。

昭和35年8月10日付(信濃毎日新聞)の掲載記事

写真の土器は第23回-6▶

みつかったじょうもん式のカメ



●人雷付土器(第43回5)出土地点

第2図 調査地区図

第三章 調査結果

第1節 調査の概要

発掘調査は市道改良工事に伴うものであり、歩道拡幅部分の幅2m、全長170m、調査面積350㎡にわたって行われた。幅2mのトレンチは4mごとに区切り、43グリッドを敷える。

調査の結果、竪穴住居址23軒(縄文中期20、中世3)、土坑155基、集石4基が検出された。縄文中期の住居址と土坑は18グリッド以西に集中し、中世の住居址は調査区東端に位置している。

遺物は住居址を中心にして多量に出土している。縄文時代では、中期初頭～後期初頭の土器、石鏃、石匙、石錐、ピース・エスキュー、打製石斧、横刃形石器、大形石匙、磨製石斧、凹石、磨石、敲石、石皿、多孔石、砥石、石棒などが出土している。中世の住居址からは、土師器皿、天目茶碗、丸皿、香炉、内耳鍋、捏鉢などが出土している。また、遺構外からは古墳時代から平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。

第2節 遺構

1. 縄文時代の住居址

第4号住居址 (第4図)

18グリッドに位置する。規模は東西で7.8mを測り、円形を呈すると考えられる。床は平坦で固く締まっている。炉より東側は傾斜する地形となっているため、ロームによる貼床(セクション図4層)がなされる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、西壁で28cmの高さを持つ。周溝は全周すると考えられ、10cmほどの深さがある。炉は径1mと大きいが浅い作りである。柱穴はP₁が主柱穴の一つと考えられる。

遺物は土器が多いが石器は少ない。土器は覆土の床面上50cm前後から床面近くまで後葉I・II期のもの(28～33、35～38)が多量に出土している。本址の構築時期は中期後葉I期である。

第5号住居址 (第4図)

18・19グリッドに位置する。規模は東西4.3mを測り、円形を呈すると考えられる。床は平坦で固く締まり、東側では第4号住居址の覆土上にロームによる貼床がなされる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、西壁で35cmを測る。周溝は全周すると考えられ、5cm前後の深さがある。炉は径1m、深さ50cmの石囲炉で底面は2段になっている。柱穴はP₁・P₂が主柱穴と考えられる。

遺物は覆土から多く出土している。土器には40～42と有孔鏝付土器(56)がある。時期は中期後葉II期と考えられる。

第6号住居址 (第4図)

19・20グリッドに位置する。規模は東西2.5m、南北3m弱で、楕円形を呈した小形の住居址である。床は平坦であるが、やや軟弱な箇所もある。壁は緩やかに立ち上がり、掘り込みも浅い。周溝、炉は

存在しない。ピットは2個検出しているが、柱穴であるか不明である。

出土遺物は少ないが、有孔罫付土器(57)がある。時期は中期後葉I期と考えられる。

第7号住居址 (第5図)

20・21グリッドに位置する。規模は3.5m前後の円形か楕円形を呈すると考えられる。床は西側で凹凸があり、やや軟弱である。壁は緩やかに立ち上がり、掘り込みも浅く西側で消滅している。周溝は存在しない。炉は調査区外にあると考えられる。ピットは4個検出しているが、P₂が主柱穴のひとつと考えられる。

遺物は特筆すべきものとして、加工を施した石棒が出土している。覆土中に10～20cmの厚さを持つ焼土層から出土しており、住居址が埋まりかけた窪地で何らかの行為があったと推察される。土器は34・39が焼土の下層から出土している。時期は中期後葉I期と考えられる。

第8号住居址 (第5図)

21グリッドに位置する。壁の一部が確認できただけで、規模・形状は不明である。床はほぼ平坦で締まっている。壁は緩く立ち上がるが、20cmほどの深さがある。周溝、炉は検出されていない。ピットは2個あり、P₁が主柱穴と考えられる。

出土遺物は少なく、土器では器台(58)がある。時期は中期後葉III期と考えられる。

第9号住居址

25グリッドで、径3mほどの円形の落ち込みを確認していたが、土坑を掘り進めていくうちに消失してしまっただ。土坑の重複も激しいため床なども確認できなかった。時期は中期と考えられる。

第10号住居址 (第6図)

25・26グリッドに位置する。土坑との重複が激しく壁や床はかなり掘り込まれているが、径3mほどの円形を呈すると考えられる。床面はほぼ平坦で比較的締まっている。壁はやや緩く立ち上がり、15cmほどの高さがある。周溝は存在しない。炉・柱穴は土坑に掘り込まれているためか、検出されなかった。

遺物は中期中葉III期の土器片がわずかに出土しており、構築した時期もそれに近いと思われる。

第11号住居址

25・26グリッドで、黒色土の落ち込みを検出したが、土坑を掘り進めると消失してしまっただ。ただ、60～68号土坑に囲まれた平坦な箇所やや硬化した面があることから本住居址の床と考えられる。時期は中期と考えられる。

第12号住居址 (第7図)

26・27・28グリッドに位置する。床面は平坦で堅緻である。壁は残存する西側では垂直に立ち上が

り、壁高は30cmを測る。周溝は東側で検出した。炉は西寄りにあり、床面と同レベルで掘り込みがないが、焼土は10cmの厚さがある。

遺物は覆土から円筒形の深鉢形土器(21)が出土している。時期は中期中葉Ⅱ～Ⅲ期である。

第13号住居址 (第7図)

28・29グリッドに位置する。半分を検出し、直径4mほどの円形を呈すると考えられる。床面、壁は土坑との重複が激しく、残存する部分は少ないがほぼ平坦で、壁高は20cm前後である。周溝は無く炉は確認できなかった。柱穴は、45号土坑と接しているものがひとつと考えられる。

出土遺物は少なく土器で図示できるのは(51)のみである。時期は中期後葉Ⅳ期と考えられる。

第14号住居址 (第8図)

31・32グリッドに位置する。直径約4.2mの円形を呈すると考えられる。床面はほぼ平坦で非常に堅緻である。壁はほぼ垂直で10～15cmの高さがある。周溝は無い。炉は調査区外と考えられる。柱穴はP₁と考えられる。東寄りに埋甕を2個検出し、底部のない埋甕(50)が底部のある埋甕(49)を壊している。いずれも正位である。住居中央では長さ2m、幅60cmにわたって床面が被熱により赤化している。

遺物は多く、土器は埋甕の他に52・53が覆土から出土している。また、土偶(1)と土製円盤(7)がある。時期は中期後葉Ⅲ～Ⅳ期である。

第15号住居址 (第8図)

33グリッドに位置する。直径2m前後の小形の住居址であるが、床面はやや堅く、壁も深いところで10cmを測る。周溝は無く、炉は検出されなかった。住居址に関連すると考えられるピットは8個あるが、P₁・P₃・P₆がしっかりした掘り込みである。

遺物は少なく、中期後葉の土器片が僅かに出土している。時期は断定しがたい。

第16号住居址 (第9図)

34グリッドに位置する。長軸約3.6m、短軸2.8mの楕円形を呈する。床面は平坦で非常に堅緻である。壁は垂直に立ち上がり、壁高は30～40cmを測る。周溝は東側のみ検出されている。炉は埋甕炉(16)で中央やや奥寄りにある。柱穴は攪乱で1個破壊されているが、4本主柱穴である。いずれも70cm前後の深さがあり、非常にしっかりした作りである。

遺物は多く、土器は検出面から床上10cmの覆土を主として多量に出土している。完形に近いものが多く、良好な一括資料である。時期は中期中葉Ⅰ期である。

第17号住居址 (第9図)

34・35グリッドに位置する。直径4・6m前後の円形を呈すると考えられる。床面は平坦で堅緻である。壁は垂直に立ち上がり、15cm前後の深さがある。周溝は一部に認められる。炉は調査区外にある

と考えられる。ピットは床面から6個検出されているが、P₁が主柱穴のひとつと考えられる。

遺物は覆土から多量に出土しており、土器では、17とミニチュア土器(9)がある。また、16号土坑に接した床面から裏返しの状態で石皿(186)が出土した。時期は中期後葉II期である。

第18号住居址 (第10図)

36・37グリッドに位置する。長軸約4m、短軸約3.4mの楕円形を呈すると考えられる。床面は平坦で非常に堅緻である。壁は垂直に立ち上がり、壁高は30~40cmを測る。周溝は存在しない。炉は埋甕炉(1)で中央やや奥寄りにある。柱穴は主柱穴のひとつと考えられる深さ60cmのP₁がある。

遺物は覆土中から多く出土している。時期は中期中葉I期である。

第19号住居址 (第10図)

39・40・41グリッドに位置する。直径5.7m前後の円形を呈すると考えられる。床面は平坦で埋甕から炉にかけて比較的堅いが、それ以外は軟弱である。壁はほぼ垂直に立ち上がるが軟弱である。壁高は20~30cmを測る。周溝は西側にあり、深さ10cm前後である。中央やや奥寄りに焼土があるが本址に伴うものか不明である。西側の周溝に接して埋甕(45)がある。

出土遺物は多く、打製石斧は19点を数え、土器には46~49・55がある。時期は中期後葉II期である。

第20号住居址 (第10図)

35・36グリッドに位置する。17・19号住居址と接しており、規模、形状は不明である。床面は平坦で堅緻である。壁はほぼ垂直で壁高は20cm前後を測る。周溝はなく、炉は検出していない。柱穴は壁下に2個あり、いずれも主柱穴と考えられる。

遺物は中期初頭の土器片がわずかに出土している。時期は中期初頭II期か。

第21号住居址 (第7図)

27・28グリッドに位置する。12号住居址を掘り込んで作っている。3.5m前後の円形を呈すると考えられる。床面は平坦で堅緻である。壁は垂直に立ち上がり、壁高は45cmを測る。周溝は西側では壁下に、東側では若干内側に設けられている。炉は調査区外にあると考えられる。ピットは床面に5個あるが、柱穴は不明である。また、壁下には深さ20cm前後の壁柱穴が周っている。

出土遺物は石器が少ないが、土器は22~25と焼町土器(27)がある。時期は中期中葉IV期である。

第22号住居址 (第6図)

24・25グリッドに位置する。東側と西側の一部で周溝を検出したことから住居址と認定した。直径5.7m前後で円形の住居址と考えられる。周溝の内側は平坦でやや堅緻であることから床面と確認できる。柱穴は同規模の土坑が多く存在するため断定できないが、位置、埋土から69・82号土坑に可能性がある。

遺物は少なく、中期後葉の土器片がわずかに出土している。時期は断定しがたい。

第23号住居址 (第10図)

39グリッドに位置する。19号住居址に切られているため、詳細は不明である。床面はほぼ平坦であるが軟弱である。壁はほぼ垂直で壁高は20cm前後を測る。

遺物は土器片がわずかに出土している。時期は中期後葉II期と考えられる。

2. 中世の住居址

第1号住居址 (第12図)

1・2グリッドに位置する。東西3.4mを測り、方形または長方形の住居址と考えられる。覆土は3層の堆積があり、7層は小さめの炭化材や焼土塊で構成され、真っ赤な部分も見られる。焼土塊には植物質の繊維が混入されていることがわかる。8層は炭化材で構成されており、焼失家屋とも考えられる。床面は平坦で堅緻である。壁は垂直に立ち上がり、壁高は20～30cmを測る。床面上から4個のピットが検出されたが、いずれも30cm以下と浅い。西壁下のピットの周囲には2個の石が、東壁下には3個の扁平な石が置かれていた。また本住居址の東西にある掘り込みは、住居址の可能性もある。

遺物は床面から土師器皿(1)、覆土から天目茶碗(2・3)、内耳鍋、丸皿などが出土した。また、研磨された礫(9)の出土がある。本址の時期は15～16世紀と考えられる。

第2号住居址 (第13図)

2・3グリッドに位置する。東西2.1mで不整形な掘り込みである。床面は堅緻である。壁は垂直に立ち上がり、壁高は10cm前後を測る。ピットは床面上に4個あり、いずれも深さは30cm以下である。

遺物は覆土から天目茶碗(4)、香炉(5)、内耳鍋(6)などが出土している。本址の時期は、出土遺物から1号住居址とほぼ同時期か、やや古くなると考えられる。

第3号住居址 (第13図)

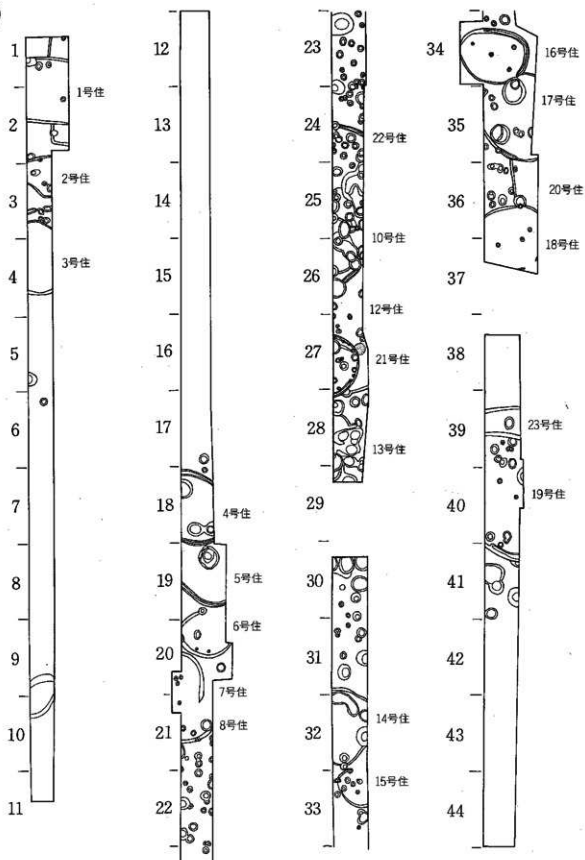
3・4グリッドに位置する。東西約4mで形状は不明である。床面は平坦で堅緻である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は15cm前後を測る。床面上からピットなどは検出されなかった。

3. 土 坑 (第4図～第13図)

縄文時代の土坑は住居址同様、17グリッド以西に設けられている。特に22～31グリッドにかけて集中しており、直径30～50cm、深さ50cm未満のものが多いが、中には1m以上の深さを持つものもある。113土坑は第1層がローム塊となっており、盛土して構築したと考えられる。いずれも中期に属すると考えられ、2号土坑からは中期初頭、75号土坑からは中期中葉の土器片(26)が比較的多く出土している。

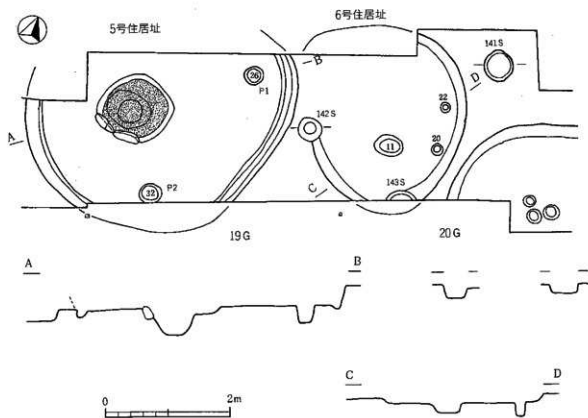
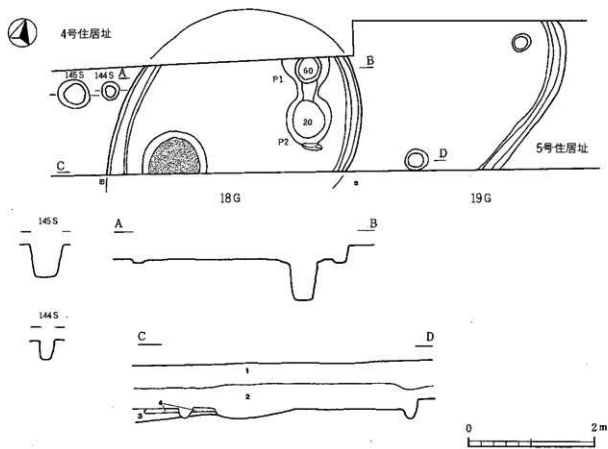
4. 集 石 (第12・13図)

1～5グリッドで4基検出した。1・2号集石は1号住居址覆土上に、3号集石は3号住居址覆土上にある。1・2号集石は拳大の礫で構成され、3・4号集石は人頭大の礫で構成される。時期は不明である。

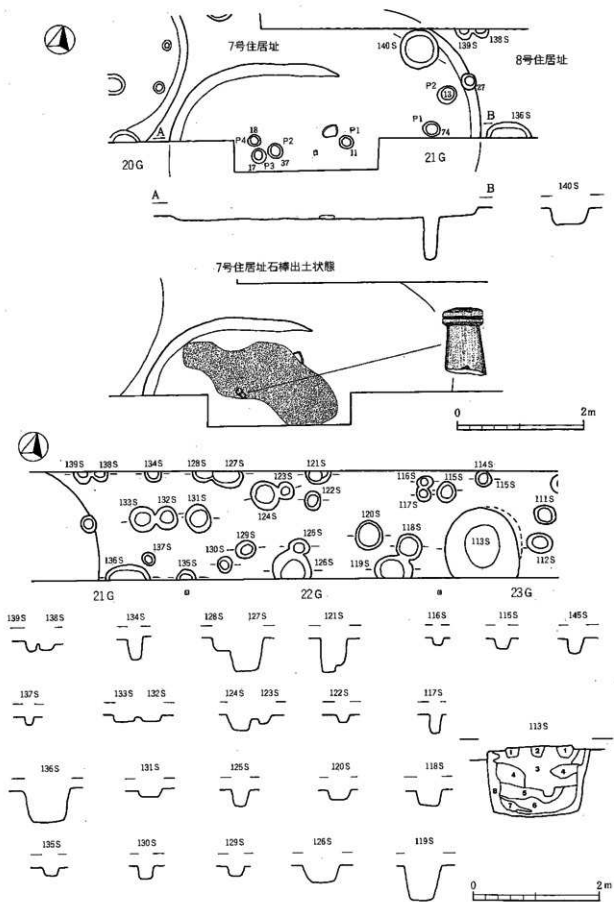


0 (1:200) 10m

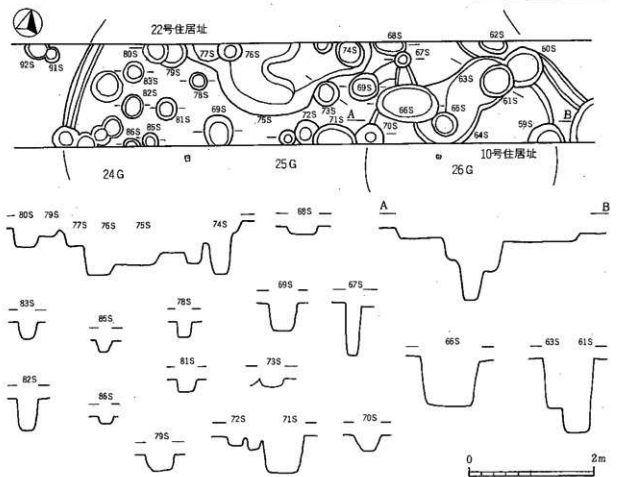
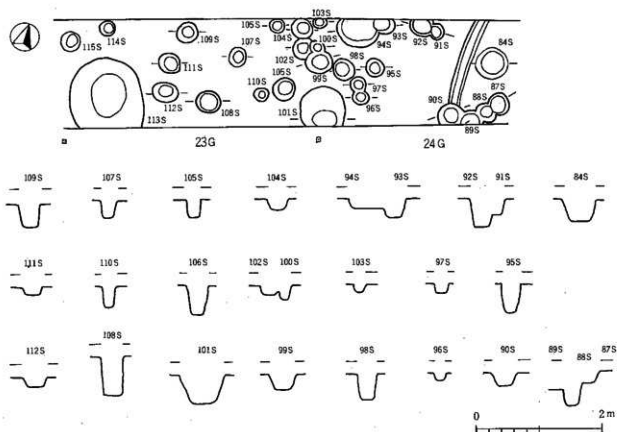
第3圖 床尾中央遺跡全体圖



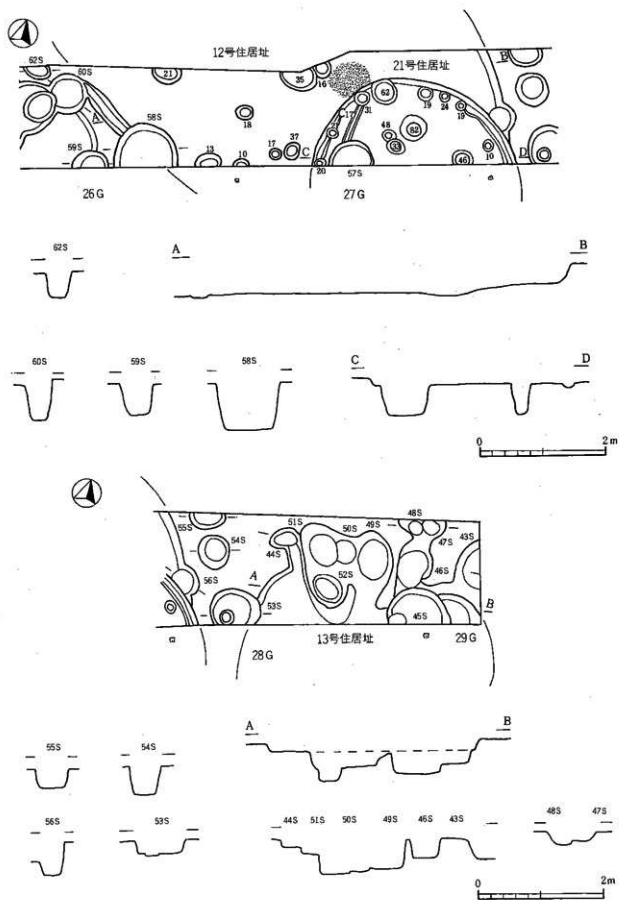
第4图 縄文中期住居址・土坑実測図(1)



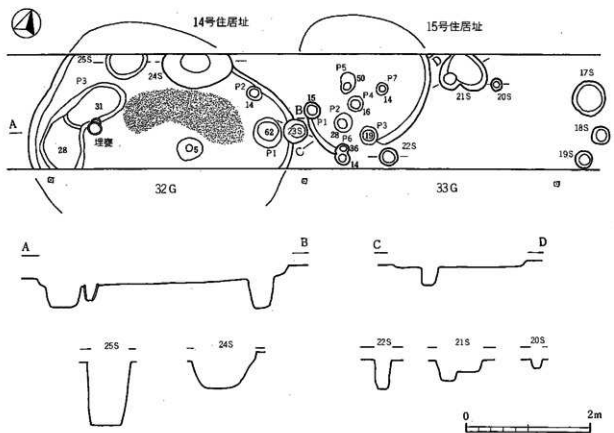
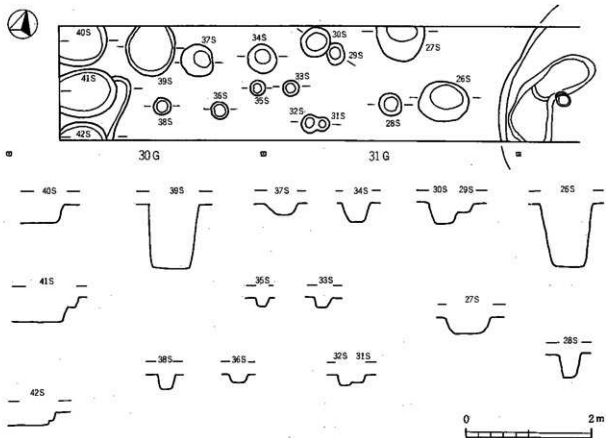
第5图 縄文中期住居址・土坑突測図(2)



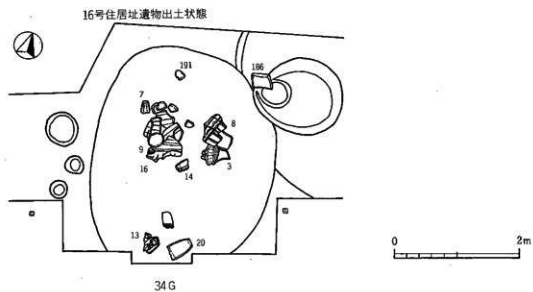
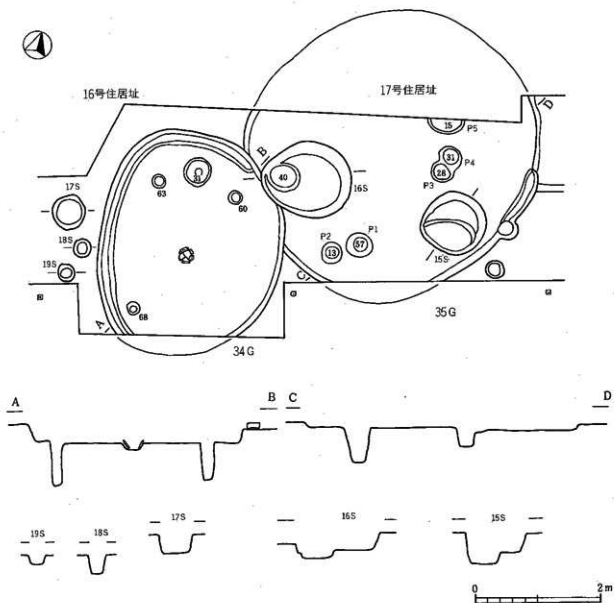
第6图 繩文中期住居址・土坑実測図(3)



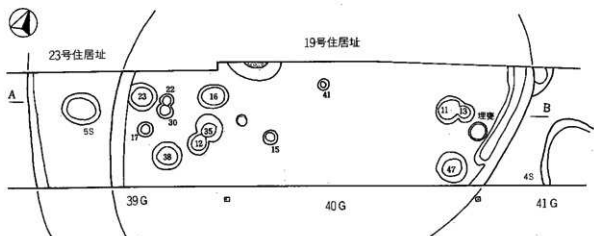
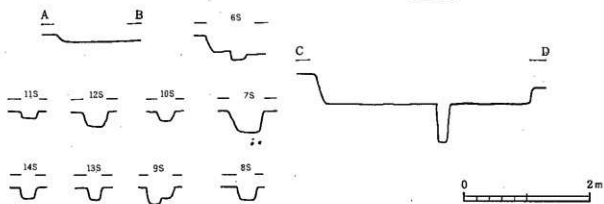
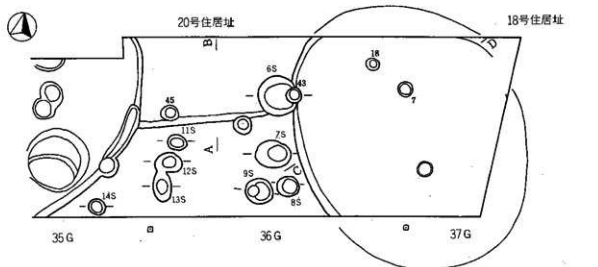
第7图 縄文中期住居址・土坑実測図(4)



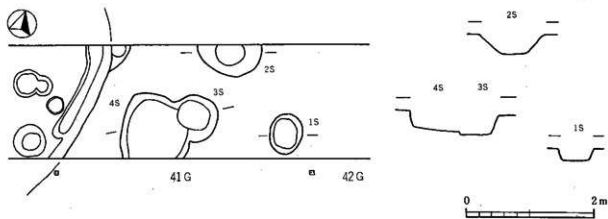
第 6 图 縄文中期住居址・土坑集列图 (5)



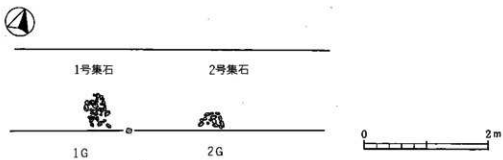
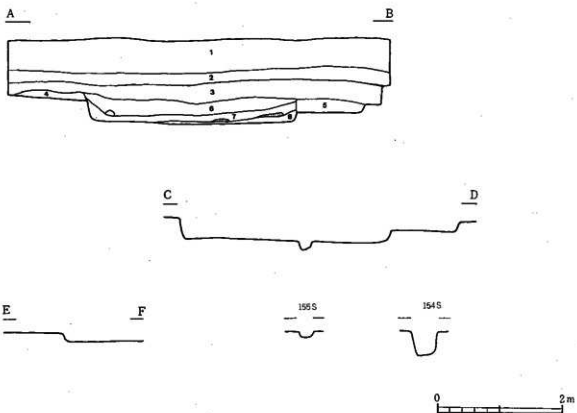
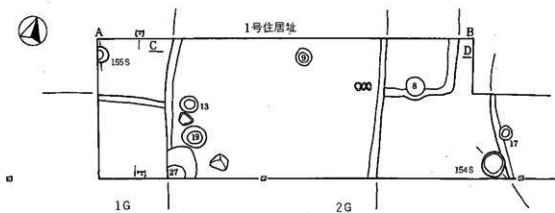
第9圖 繩文中期住居址・土坑実測図(6)



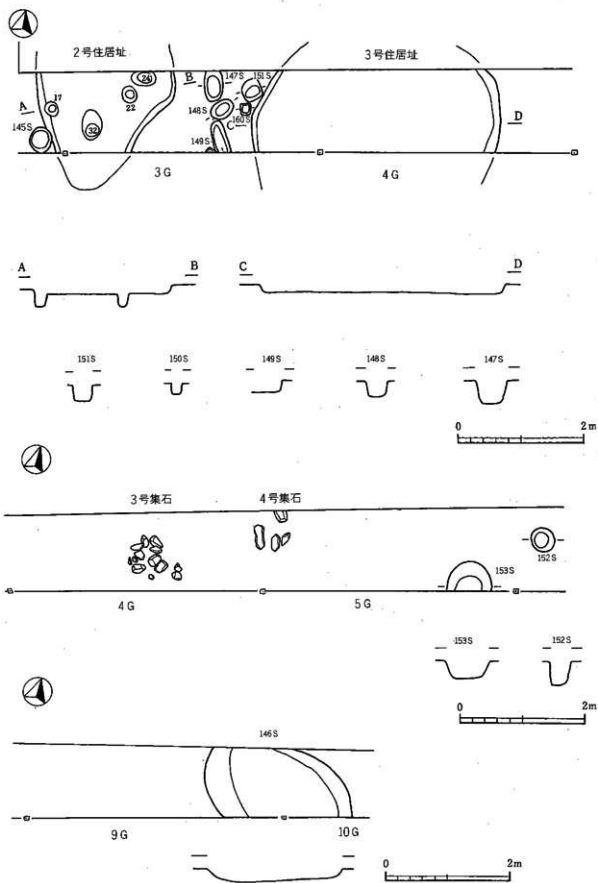
第10图 縄文中期住居址・土坑実測図(7)



第11圖 繩文中期住居址・土坑実測図(8)



第12图 中世住居址・土坑夷削图(1)



第13图 中世住居址・土坑横测图(2)

第3節 遺物

1. 縄文時代の遺物

(1) 土器 (第14図～第23図)

住居址の覆土を主として多くの土器が出土した。ほとんどが中期に属しており、わずかに後期土器が認められる。中期の時期区分は中期初頭、中期中葉、中期後葉として、それぞれ段階ごとに細分した。土器の年代観については、長野県史の編年（長野県史刊行会1988『長野県史』考古資料編全1巻 4遺構・遺物）によって時期区分を行った。

① 中期初頭の土器

20号住居址、2号土坑及び16・18号住居址の覆土から土器片がややまとまって出土している。また、12～16グリッドの遺物包含層からも土器片が、数点出土しており、調査区外に遺構の益がりが予想される。

② 中期中葉の土器 (第14図～第18図)

中葉Ⅰ期（谿沢式期）から中葉Ⅳ期（藤内Ⅱ式期）の土器が主に出土しており、中葉Ⅴ、Ⅳ期（井戸尻Ⅰ・Ⅱ式、Ⅲ式期）は破片がわずかにある程度である。以下、段階ごとに概観する。

中期中葉Ⅰ期〈谿沢式期〉

第16・18号住居址から出土した土器が該当する。勝坂式土器は1～3、7・8である。1・2は埋甕炉、他は覆土からの出土で、いずれも角押文あるいは三角押引文が施される。浅鉢形土器(12)は口縁部に角押文、胴部に縄文が施される。斜行沈線文土器は13・16があるが、本期に属するのは16である。14・15については、角押文があり、勝坂式土器とも考えられるが、胴部の懸垂文などは斜行沈線文土器の要素ともいえる。平出三A土器は17～20であるが、縄文のある18・19が本期に属すると考えられる。

中期中葉Ⅱ期〈新道式期〉

第16・20号住居址の覆土から出土した土器が該当する。勝坂式土器は4～6、9～11である。区画面や隆帯の脇に三角押引文が施される。13の斜行沈線文土器は斜行沈線文が粗く施され、無文部を持つことから本期に属する。17・18の平出三A土器は沈線が雑になったり省略されたりしている。

中期中葉Ⅲ期〈藤内Ⅰ式期〉

第12・21号住居址と75号土坑からまとまって出土している。21は三角押引文が全面に施されており、中葉Ⅱ期に上がる可能性もある。22は縦位区画面内に沈線と爪形文が、23・26には隆帯脇に爪形文が施される。

中期中葉Ⅳ期〈藤内Ⅱ式期〉

第21号住居址から出土している。24は縄文の上に連鎖状隆帯を貼付しており、松本平から諏訪湖周辺にかけてしばしば認められる。25も本期と考えられる。27は焼町土器で口唇部や胴部に小形の環状突起を貼付し、器面を曲隆線で埋めている。

中期中葉Ⅴ期〈井戸尻Ⅰ・Ⅱ式期〉

包含層や住居址の覆土から破片がわずかに出土している程度で、図示できるものはなかった。今回の調査区外には住居址の存在は予想されるものの、前後の時期に比べて極端に減少している。

③ 中期後葉の土器 (第18図～第23図)

第4～8、13～15、17・19・21・22号住居址から出土している。後葉Ⅰ期の4号住居址と後葉Ⅱ期の19号住居址からの出土品が多い。以下、段階ごとに概観していく。

中期後葉Ⅰ期

第4号住居址の28～31、33・35と第7号住居址の34が該当する。28～31は隆帯を貼付した後に、その間を沈線で埋める梨久保B式である。33～35は地文に縄文をもち、隆線を交差させて貼付する篋目文や波状隆線文などが施され、この時期の特徴を示している。

中期後葉Ⅱ期

第4号住居址の32・36～38、7号住居址の39、5号住居址の40～42、17号住居址の43・44、19号住居址の45～48・55、既出資料の60が該当する。いずれも唐草文や腕骨文の間に沈線を施した唐草文系土器群で、36や37のように把手の発達したものもある。55は欠損しているため全形はわからないが、注口部をもつ特異な形態をしている。

中期後葉Ⅲ期

第14号住居址の日理壺49と覆土出土の52・53が該当する。49・52は沈線によって器面が埋められるが、粗雑化する傾向がうかがえる。

中期後葉Ⅳ期

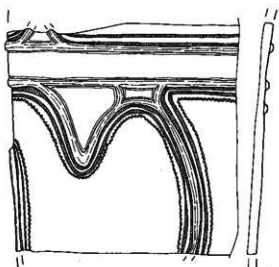
第14号住居址の新埋壺50と13号住居址の51が該当する。どちらも逆「U」字文の区画がなされ、沈線文および縄文が施されている。

④ 後期初頭の土器 (第23図-59)

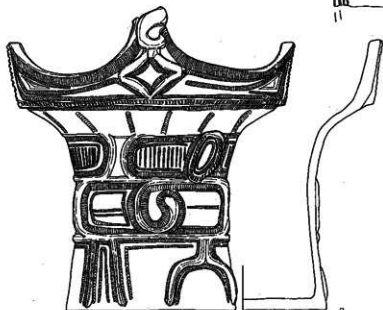
11グリッド包含層から唯一図示できる後期土器が出土している。沈線によって渦巻文を描き、その中に縄文を施した称名寺式土器である。



1
16住炉



2
18住炉



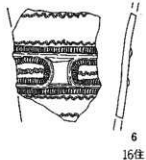
3
16住



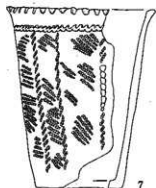
4
16住



5
18住



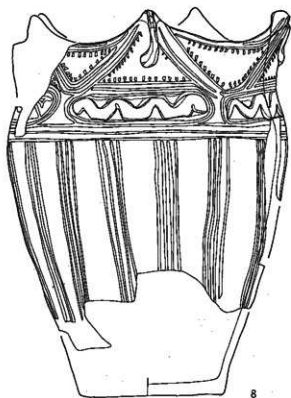
6
16住



7
16住



第14图 縄文土器実測图(1)



8
16住



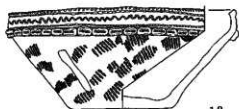
9
16住



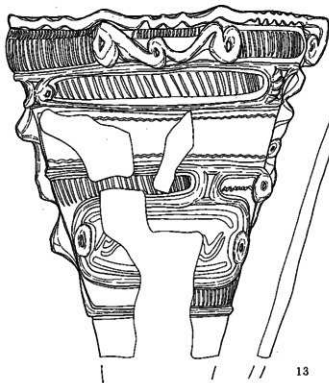
10
18住



11
16住



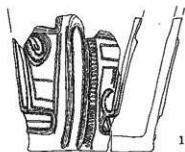
12
16住



13
16住



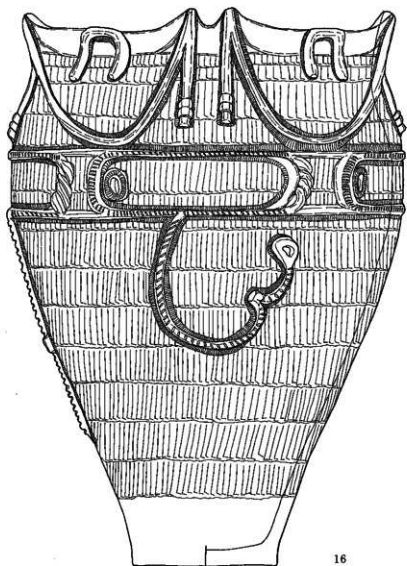
14
18住



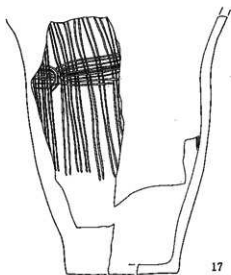
15
16住



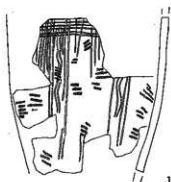
第15圖 縄文土器実測図(2)



16
16住



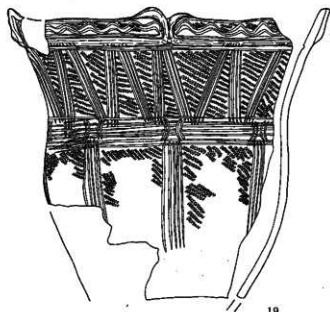
17
18住



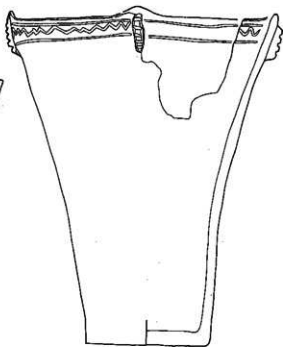
18
16住



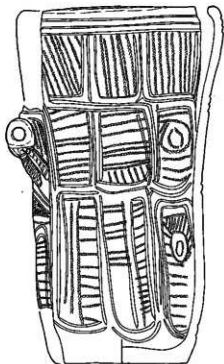
第16圖 縄文土器実測図(3)



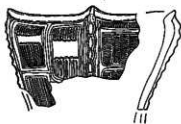
19
18住



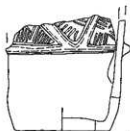
20
16住



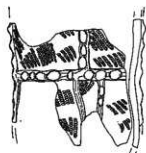
21
12住



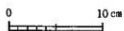
22
21住



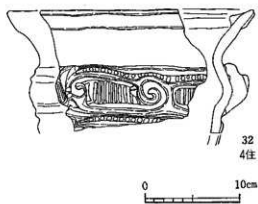
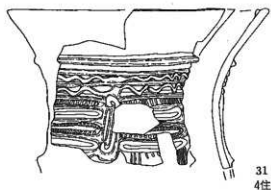
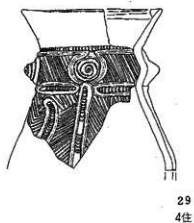
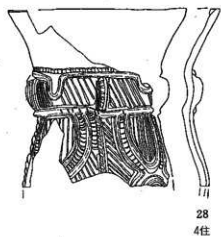
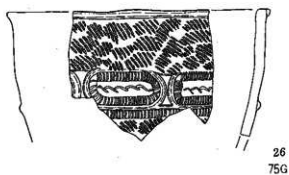
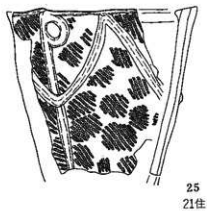
23
21住



24
21住



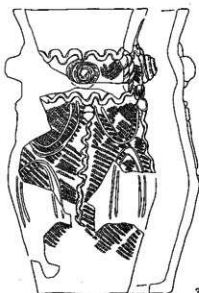
第17圖 編文土器実測圖(4)



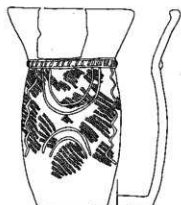
第18圖 縄文土器実測圖(5)



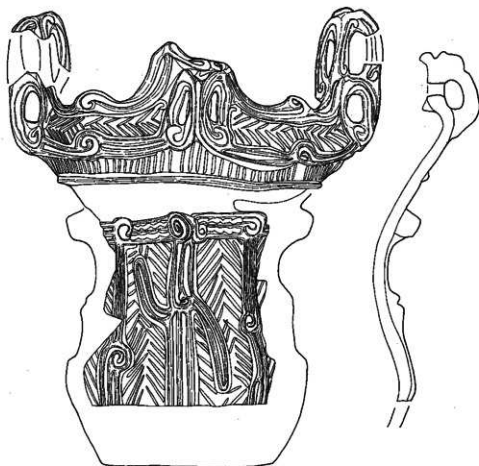
33
4住



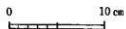
34
7住



35
4住



36
4住



第18圖 縄文土器実測図(6)



37
4住



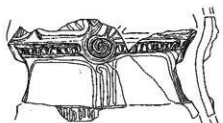
38
4住



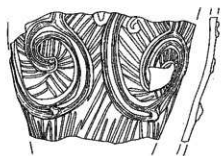
40
5住



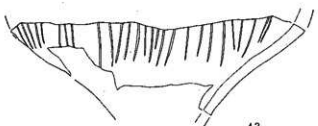
39
7住



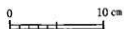
41
5住



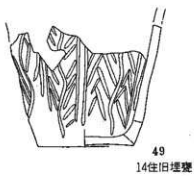
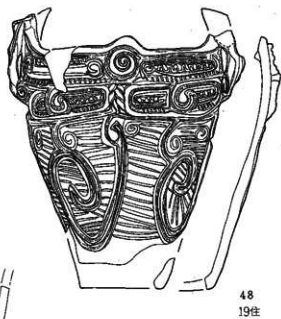
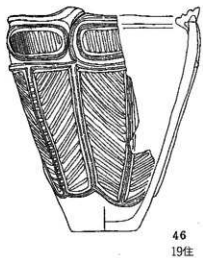
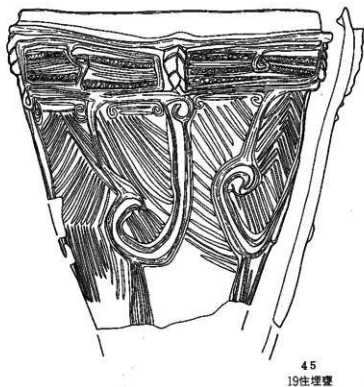
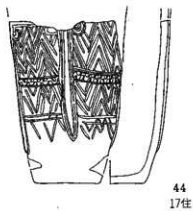
42
5住



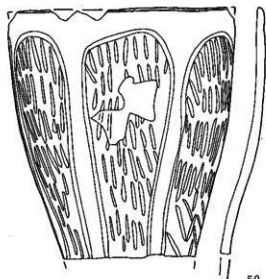
43
17住



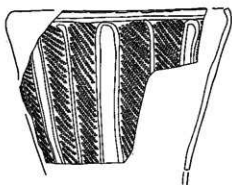
第20圖 縞文土器実測図(7)



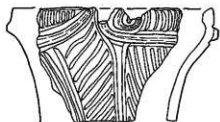
第21圖 縄文土器実測図(6)



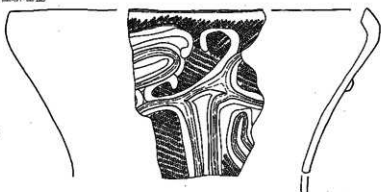
50
14住新埋壘



51
13住



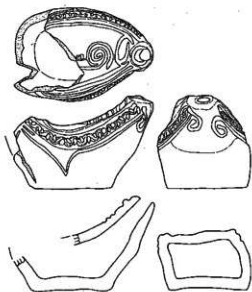
52
14住



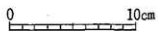
53
14住



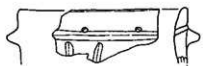
54
16G



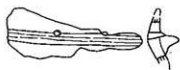
55
19住



第22圖 縄文土器実測図(9)



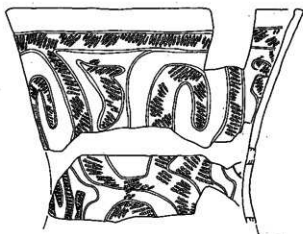
56
5住



57
6住



58
8住



59
11G



60

既出資料



第23圖 縄文土器実測図(1)

(2) 石 器 (第24~42図、第2表)

今回の調査で出土した石器は総数397点で、器種ごとの点数は以下のとおりである。

① 石 鏃……………27点	② 石 匙……………1点	③ 石 錐……………1点
④ ビエス・エスキーユ……………29点	⑤ 小剥離痕のある剥片……………59点	⑥ 打製石斧……………113点
⑦ 横刃形石器……………14点	⑧ 大形石匙……………1点	⑨ 磨製石斧……………6点
⑩ 凹・磨・敲石……………52点	⑪ 石 皿……………3点	⑫ 多孔石……………1点
⑬ 砥 石……………3点	⑭ 石 棒……………1点	

この他に黒曜石や頁岩の剥片、碎片が多量に出土している。定形的な石器についてはすべて一覽表に登載し、完形またはそれに近いものをできる限り実測・図化した。以下、器種ごとに概要を記す。

- ① 石 鏃 (1~22) 調査区及び付近の畑地の表面採集資料も含め27点ある。石質は黒曜石26点、チャート1点である。いずれも無茎鏃で、基部の形態はすべて凹基である。17~22は未製品と考えられる。出土地点は住居址に多く、土器と同様に覆土からの出土である。
- ② 石 匙 (24) 通常の形態と異なるが本石器とした。全体的に風化しているが、袂部の剥離はややはっきりしている。
- ③ 石 錐 (25) 黒曜石製で、つまみ部のあるものが1点出土している。
- ④ ビエス・エスキーユ (27~38) 29点出土している。器体の上下端に剥離とつぶれがあるものを本石器とした。石質はすべて黒曜石である。形状はバラエティーに富むが、長さ2cm前後のものが主体をなしている。
- ⑤ 小剥離痕のある剥片 (39~54) 59点出土している。小剥離痕が2次加工によるものと、使用の際の刃こぼれによるものとの2者が考えられるが包括して扱った。黒曜石が54点を占める。19号住居跡の埋室内からは黒曜石製の加工痕を有する剥片(42)が検出された。
- ⑥ 打製石斧 (55~121) 113点出土している。形状のわかる67点をすべて図化し、短冊形64点、撥形3点であった。側縁部に抉りを有し、つぶしのあるものが43点、摩耗痕は23点にみられた。表面に自然面が残るものは30点あり、半数を占めている。石質は頁岩が88点と圧倒的に外く、東山山麓の諸遺跡と共通している。破損状況は完形が35点あり、3割以上を占めている。
- ⑦ 横刃形石器 (122~131) 14点出土している。剥片の縁部にわずかな調整を施し、形状を整えている。刃部は剥片の縁辺をそのまま利用したもの7点、両面から調整したもの1点、片面から調整したもの2点である。石質は打製石斧同様に頁岩が主体をなしている。
- ⑧ 大形石匙 (132) 21号住居址から頁岩製が1点出土している。
- ⑨ 磨製石斧 (133~138) 未製品と考えられる1点を含めて6点出土している。小形の定角式1点と乳棒状式4点である。133は欠損面に敲打痕、裏面に凹部があるところから凹・敲石に転用されたと考えられる。石質はチャートが半数を占めている。
- ⑩ 凹・磨・敲石 (139~184) 凹石、磨石、敲石は3機能を併存させる個体が多いこともあり、包括して扱った。単独の機能を持つものは磨石3点、敲石8点である。複数の機能を持つものの組み合わせ

せは、凹部+敲打痕23点、磨面+敲打痕5点、凹部+磨面+敲打痕12点である。石質は凝灰岩、砂岩が多い。

- ⑫ 石 皿 (185,186) 3点出土している。安山岩製2点、粗粒凝灰岩製1点である。185は表面、底面とも磨耗が認められる。186は扁平な自然石をそのまま利用しており、皿部は浅いがよく摩耗している。表面と底面に数カ所の凹部が設けられている。
- ⑬ 多孔石 (187) 底面を除いた3面に凹部が設けられる。凹部の周囲は敲打によるものか、ややザラついている。
- ⑭ 砥 石 (188~190) 3点出土しているが形態はそれぞれ異なる。178は三角柱状を呈し、3面が砥面となっており、よく研がれている。189、190は磨面があることから、本石器に含めたが、詳細は不明である。
- ⑮ 石 棒 (193) 7号住居址から頭部に加工を施した石棒が1点出土している。頭部先端に円形の凹部を設け、その周囲に一条の溝をめぐらせることによって段差を作り出している。また、頭部側面にも全周する溝を彫りこんでいる。底面は敲打によって整形がなされた後、研磨されている。断面は頭部から基部にわたって楕円形である。焼土上に出ていた器体の半分は黒色の煤が付着し、焼土下の部分は披熱によって赤化しており、脆くなっているところも見受けられる。
- ⑯ その他の石器 (191,192,194,195) 191は扶部を作出し側縁部は敲打されている。平出遺跡J-4号住居址から形態の似た石器が出土している。192は人頭大のレキを粗く剝離して、敲打が加えられている。194は軽石製品で、穿孔しようとしたのか片面のみに凹部が設けられる。195は研磨された小形の礫で表裏、側面ともにいいいに磨かれている。

(3) 土 製 品 (第43~4)

土 偶 (1~4) 4点出土している。1は14号住居址覆土から出土した胴上半部のみの板状の土偶である。頸部との破損面からは左右の胴部を接合している様子がうかがえる。2・3は18号住居址の覆土から出土した。2は尻部で破損した面はすべて滑らかであることから、この部分を分割して作っている。3は右腰部で接合面があることから、左部分とは分割して作られたと考えられる。また、胸部との破損面には芯棒の痕跡が残されている。4は31グリッドの包含層から出土した腕部である。

土製円盤 (6~8) いずれも住居址の覆土から出土したもので、中期後葉と考えられる。

ミニチュア土器 (9~11) 9は17号住居址の床面から出土したもので、内面はよく磨かれた丁寧な作りである。10・11は旧河川上の包含層から出土しており、流れ込みと考えられる。

以上の他に5の人面付土器が、昭和58年に今回の調査区とは道路を隔てた地点で発見されている。

2. 古代の遺物

調査区のほぼ全域において古墳時代から平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器が少量ながら検出された。いずれも破片のため図示し得ないが、16グリッドおよび24~26グリッドで古墳時代の土師器坏、甕などが比較的多く出土していることから付近に遺構の存在が予想される。

第2表 石器観察表

① 石 鏟

No	図 No	出土地点	石 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (g)	重さ (g)	破 損 状 況	備 考
1	1	5住覆土下層	黒曜石	1.6	(1.3)	0.3	(0.3)	片脚欠	
2	2	7住焼土下層	〃	2.4	1.5	0.4	0.8	完 形	
3	3	〃	〃	2.1	1.4	0.4	(0.7)	片脚欠	
4	4	8住	〃	(1.9)	1.7	0.2	(0.7)	上半欠	
5	5	17住P ₂ 下	〃	1.7	1.2	0.3	(0.4)	片脚欠	
6	6	18住覆土下層	〃	(2.0)	1.2	0.3	(0.4)	両脚欠	
7		18住覆土上層	〃	(1.6)	(1.2)	0.4	(0.5)	先端・片脚欠	
8	7	〃	〃	(2.3)	(1.2)	0.4	(0.4)	〃	
9		16G	〃	(0.8)	(1.7)	0.2	(0.4)	上半・両脚欠	
10	8	17G覆土上層	〃	1.7	1.2	0.4	0.6	完 形	
11		26G覆土上層	〃	(2.0)	(1.0)	0.2	(0.5)	両脚欠	
12	9	28G覆土上層	〃	1.5	(1.3)	0.4	(0.4)	片脚欠	
13		〃	〃	(1.2)	(0.9)	0.3	(0.3)	下半欠	
14	10	28G覆土下層	〃	(2.2)	(1.6)	0.3	(0.6)	先端・片脚欠	
15	11	表面採集	〃	2.2	(1.6)	0.2	(0.6)	片脚欠	
16	12	〃	〃	1.7	1.8	0.4	0.6	完 形	
17	13	〃	〃	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.3)	先端・片脚欠	
18	14	〃	〃	2.5	(1.1)	0.5	(1.2)	片脚欠	
19		〃	〃	(1.1)	(0.9)	0.3	(0.3)	先端・片脚欠	
20	15	23G	〃	1.6	1.7	0.4	(0.7)	先端欠	製作途中欠損
21	16	26G覆土上層	〃	(2.2)	1.6	0.6	(1.4)	先端・片脚欠	〃
22	17	5住覆土下層	〃	2.6	1.6	0.6	2.2		未製品
23	18	7住覆土下層	〃	2.1	1.4	0.8	2.0		〃
24	19	16住覆土上層	〃	2.8	1.7	0.6	1.6		〃
25	20	19住覆土上層	〃	2.2	2.1	0.7	2.4		〃
26	21	31G	チャート	2.9	2.1	1.1	5.8		〃
27	22	32G	黒曜石	(2.0)	1.5	0.3	0.7		〃

② 石 匙

1	24	19住覆土上層	頁 岩	9.7	2.6	1.0	21.1	完 形	
---	----	---------	-----	-----	-----	-----	------	-----	--

③ 石 鏟

1	25	31G覆土下層	黒曜石	(3.7)	1.5	0.7	(2.9)	先端欠	
---	----	---------	-----	-------	-----	-----	-------	-----	--

④ ビエス・エスキュー

1	27	4住覆土上層	黒曜石	1.7	1.8	0.7	1.8		4個縁つぶれ	
2		5住覆土下層	〃	1.9	2.2	0.9	3.2			
3		〃	〃	1.3	1.4	0.4	0.8			
4		〃	〃	1.9	1.7	0.9	2.9			
5		14住	〃	2.7	2.4	0.9	4.7			
6		14住	〃	2.0	2.5	0.9	5.3			
7		14住覆土上層	〃	2.3	2.9	1.1	6.7			
8		14住P ₃	〃	1.5	1.5	1.2	2.1			
9		28	16住覆土上層	〃	1.4	1.4	0.6			0.9
10		29	〃	〃	2.0	1.9	1.0			3.0

④ ビエス・エスキーユ

No	図 No	出土地点	石 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備 考
11	30	18住覆土下層	黒曜石	1.9	1.2	0.7	1.1		側縁に小剝離
12	31	〃	〃	2.3	2.1	1.0	4.2		
13	32	19住覆土上層	〃	3.1	1.5	0.9	2.8		
14	33	21住覆土上層	〃	3.2	1.5	1.0	4.4		側縁に小剝離
15		21住P ₁	〃	2.3	2.3	0.6	2.5		〃
16	26	16G	〃	3.3	1.0	0.9	2.9		
17		22G	〃	2.5	1.0	1.0	2.1		
18		25G	〃	2.4	1.2	0.9	2.2		
19		25G覆土上層	〃	1.6	1.7	0.5	1.4		
20	34	28G覆土上層	〃	3.1	1.5	0.8	3.1		
21	35	〃	〃	1.8	1.8	0.9	2.7		
22	36	〃	〃	2.2	1.9	0.6	2.2		
23		〃	〃	1.8	1.6	0.8	2.0		
24	37	31G	〃	2.4	1.4	0.9	2.8		
25		31G	〃	1.5	1.6	0.7	1.4		
26		33G	〃	2.0	1.7	1.3	3.0		
27	38	34G	〃	1.8	1.6	0.7	1.7		
28		表面採集	〃	2.1	1.4	0.5	1.5		
29		〃	〃	2.5	1.7	0.9	3.3		

⑤ 打製石斧

1	55	1 住	頁 岩	(9.1)	3.9	1.6	(65.0)	基部欠	つぶし
2	56	4 住	〃	(13.1)	4.7	1.6	94.0)	刃部欠	つぶし・摩耗
3	57	〃	〃	10.1	5.2	0.9	(74.0)	完 形	刃部再成
4		〃	〃	(4.9)	3.5	1.1	(28.0)	基部のみ	
5		〃	〃	(8.0)	4.9	1.5	(84.0)	下半欠	
6	58	5 住	〃	(11.0)	4.8	1.5	(100.0)	基部欠	摩 耗
7	59	〃	粘板岩	9.9	3.8	1.8	79.0	完 形	つぶし・摩耗
8		6 住	頁 岩	(16.0)	3.7	0.7	(28.0)	上半欠	
9	60	7住焼土上層	〃	9.5	6.8	2.5	155.0	完 形	
10	61	〃	〃	12.9	4.2	1.6	90.0	〃	つぶし
11		〃	ホルンフェルス	(5.5)	4.3	0.9	(54.0)	基部のみ	
12		〃	頁 岩	(6.1)	4.7	1.4	(44.0)	上半欠	
13		9 住	ホルンフェルス	(6.9)	2.9	1.1	(28.0)	刃部欠	
14		10 住	頁 岩	(8.4)	3.0	0.9	(30.0)	基・刃部欠	
15		10 住	〃	(8.5)	(3.5)	0.7	(25.0)	片側欠	
16	62	12 住	〃	(10.6)	7.0	1.6	(137.0)	基部欠	
17	63	〃	〃	12.8	7.0	1.4	168.0	完 形	つぶし
18	64	〃	粘板岩	(9.2)	5.8	1.8	(92.0)	上半欠	つぶし・摩耗
19	65	〃	頁 岩	9.7	4.3	1.2	69.0	完 形	摩 耗
20	66	〃	〃	11.7	6.5	2.2	195.0	〃	つぶし
21		〃	〃	(4.5)	4.2	0.8	(20.0)	刃部のみ	
22		〃	〃	(2.5)	6.9	1.2	(32.0)	基部のみ	
23	67	13 住	〃	12.2	6.9	2.5	235.0	完 形	つぶし

⑥ 打製石斧

No	図 No	出土地点	石 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破 損 状 況	備 考
24	68	13 住	粘板岩	12.7	4.3	1.6	98.0	完 形	摩 耗
25	69	〃	頁 岩	(9.4)	3.7	1.2	(53.0)	基部欠	つぶし
26	〃	〃	〃	(7.5)	2.6	1.9	(54.0)	下半欠	〃
27	〃	〃	粘板岩	(5.0)	5.8	1.0	(41.0)	刃部のみ	〃
28	〃	〃	頁 岩	(7.0)	4.9	2.6	(91.0)	上半欠	〃
29	70	14住Ps	〃	14.2	4.9	1.8	146.0	完 形	つぶし
30	71	〃	粘板岩	(13.5)	3.5	1.9	(108.0)	基部欠	つぶし・摩耗
31	〃	〃	頁 岩	(9.4)	3.6	0.8	(46.0)	上半欠	〃
32	〃	〃	粘板岩	(8.0)	3.4	1.5	(38.0)	基・刃部欠	〃
33	〃	〃	頁 岩	(5.3)	4.7	1.5	(39.0)	基部のみ	〃
34	72	16 住	粘板岩	10.0	5.5	1.3	(88.0)	刃部欠	〃
35	73	〃	頁 岩	11.5	2.7	1.1	(45.0)	完 形	つぶし
36	〃	〃	〃	(3.0)	3.2	1.1	(15.0)	基部のみ	〃
37	〃	〃	ホルンフェルス	(6.9)	5.1	1.5	(77.0)	〃	〃
38	〃	〃	頁 岩	(4.2)	3.7	1.1	(28.0)	体部のみ	〃
39	〃	〃	〃	(4.6)	3.3	0.7	(20.0)	〃	〃
40	74	17 住	〃	11.6	4.3	0.7	53.0	完 形	〃
41	75	〃	〃	13.4	4.1	1.6	105.0	〃	つぶし・摩耗
42	76	〃	〃	(8.4)	5.1	1.7	(72.0)	基部欠	〃
43	77	18 住	〃	(10.9)	4.5	1.5	(74.0)	基・刃部欠	〃
44	78	〃	〃	(9.0)	4.5	1.1	(53.0)	刃部欠	つぶし
45	79	〃	〃	12.5	5.5	1.3	93.0	完 形	摩 耗
46	80	〃	〃	(9.2)	4.6	1.2	(65.0)	刃部欠	〃
47	81	〃	〃	9.7	3.2	0.9	27.0	完 形	〃
48	82	〃	〃	6.9	4.6	0.8	35.0	〃	〃
49	83	〃	〃	6.2	5.0	0.9	40.0	〃	刃部再成
50	〃	〃	〃	(5.1)	4.5	1.5	(55.0)	基部のみ	〃
51	〃	〃	〃	(5.5)	3.5	1.2	(33.0)	〃	〃
52	〃	〃	〃	(10.0)	4.0	(1.1)	(42.0)	片面欠	〃
53	〃	〃	〃	(7.3)	3.8	1.6	(70.0)	基・刃部欠	〃
54	84	19 住	〃	13.5	3.5	2.3	138.0	完 形	つぶし・摩耗
55	85	〃	〃	(10.9)	3.6	2.0	(81.0)	基・刃部欠	つぶし
56	86	〃	〃	12.1	5.6	2.4	195.0	完 形	〃
57	87	〃	〃	(10.6)	4.0	0.9	(53.0)	基部欠	〃
58	88	〃	〃	(10.3)	3.9	1.4	(83.0)	刃部欠	つぶし
59	89	〃	〃	(11.6)	4.9	2.1	(125.0)	〃	つぶし・摩耗
60	90	〃	粘板岩	9.6	4.2	1.5	87.0	完 形	〃
61	91	〃	頁 岩	10.9	4.3	1.5	75.0	〃	つぶし
62	〃	〃	〃	(9.0)	3.3	1.3	(59.0)	基・刃部欠	〃
63	〃	〃	〃	(9.9)	4.4	1.4	(66.0)	〃	〃
64	〃	〃	〃	(7.2)	3.8	0.9	(30.0)	基部欠	〃
65	〃	〃	〃	(5.2)	6.3	1.4	(55.0)	体部のみ	〃
66	〃	19住Pt	〃	(5.6)	4.5	2.0	(58.0)	刃部のみ	〃
67	92	2 S	〃	(7.7)	4.5	1.4	(65.0)	刃部欠	つぶし・摩耗
68	93	63 S	〃	(8.0)	2.8	1.2	(29.0)	基部欠	つぶし
69	94	9 G	〃	7.3	4.9	0.9	47.0	完 形	〃

⑥ 打製石斧

No	図 No	出土地点	石 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破 損 状 況	備 考
70	95	14G	粘板岩	9.8	3.5	1.3	66.0	完 形	
71	96	15G	頁 岩	9.0	3.8	1.5	55.0	〃	つぶし
72	97	〃	〃	12.6	4.4	1.7	129.0	〃	〃
73	98	〃	〃	(12.5)	5.5	1.4	(102.0)	側縁欠	摩 耗
74	99	〃	〃	(7.3)	4.5	2.4	(89.0)	刃部欠	つぶし
75	100	16G	〃	(11.7)	4.4	1.4	(91.0)	基部欠	摩 耗
76	101	〃	〃	(12.3)	(4.5)	1.2	(93.0)	側縁欠	
77	102	〃	〃	(9.5)	4.6	1.1	(48.0)	刃部欠	つぶし
78	〃	〃	〃	(7.8)	3.9	1.8	(52.0)	基・刃部欠	
79	103	17G	粘板岩	(10.3)	4.7	0.9	(57.0)	基部欠	つぶし
80	104	〃	頁 岩	11.2	5.3	1.3	89.0	完 形	摩 耗
81	105	〃	〃	(8.8)	4.8	1.8	(86.0)	基部欠	つぶし
82	18G	〃	〃	(4.4)	4.3	1.4	(26.0)	体部のみ	
83	106	20G	粘板岩	8.2	5.0	1.0	65.0	完 形	つぶし
84	107	24G	頁 岩	(8.8)	4.3	4.7	83.0	刃部欠	
85	〃	〃	珪質頁岩	(8.1)	5.8	1.8	(100.0)	体部のみ	
86	〃	〃	頁 岩	(6.6)	5.2	1.3	(54.0)	刃部のみ	
87	〃	〃	細粒砂岩	(5.8)	5.0	1.4	(48.0)	上半欠	
88	26G	〃	頁 岩	(10.0)	(6.7)	1.2	(67.0)	体部のみ	
89	28G	〃	細粒砂岩	(8.0)	3.7	1.9	(62.0)	刃部欠	
90	108	30G	頁 岩	12.4	5.0	2.3	190.0	完 形	つぶし
91	〃	〃	ホルンフェルス	(7.7)	5.9	1.6	(69.0)	体部のみ	
92	31G	〃	頁 岩	(4.8)	6.7	1.4	(62.0)	刃部のみ	
93	〃	〃	ホルンフェルス	(3.7)	4.7	1.0	(28.0)	〃	
94	〃	〃	粘板岩	(4.3)	3.9	1.1	(24.0)	〃	
95	〃	〃	〃	(3.4)	4.2	1.1	(20.0)	基部のみ	
96	109	32G	頁 岩	9.3	5.5	1.7	(100.0)	刃部欠	
97	110	〃	〃	(10.2)	3.2	0.9	(32.0)	基部欠	つぶし
98	〃	〃	〃	(7.8)	5.0	(1.4)	(75.0)	片面欠	
99	111	38G	〃	(10.7)	4.1	1.2	(76.0)	基部欠	つぶし・摩耗
100	112	39G	〃	(10.7)	4.0	1.4	(60.0)	刃部欠	〃
101	113	〃	〃	9.7	3.6	2.0	(87.0)	完 形	〃
102	114	〃	〃	7.9	4.6	1.1	41.0	〃	
103	115	〃	〃	9.4	3.8	0.9	43.0	〃	つぶし
104	〃	〃	粘板岩	(5.5)	4.0	1.1	(25.0)	下半欠	〃
105	116	44G	頁 岩	8.3	(5.8)	1.1	(46.0)	側縁欠	〃
106	〃	〃	〃	(7.5)	4.9	1.7	(94.0)	下半欠	
107	117	3 区	細粒砂岩	10.0	4.5	1.8	87.0	完 形	つぶし
108	118	〃	頁 岩	9.8	3.9	1.4	82.0	〃	つぶし・摩耗
109	119	表 採	〃	10.1	5.2	1.3	90.0	基部欠	つぶし
110	〃	〃	粘板岩	(5.4)	4.2	1.9	(41.0)	基部のみ	
111	〃	〃	〃	(7.9)	5.0	1.7	(90.0)	刃部欠	
112	120	26G	頁 岩	11.8	2.3	0.8	34.0	完 形	未製品?
113	121	15G	〃	21.0	8.1	3.6	909.0	〃	〃

⑦ 横刃形石器

No	図No	出土地点	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備考
1		5 住	頁岩	3.9	(6.3)	1.3	(42.0)	片側欠	
2	122	7 住	〃	3.8	13.5	1.0	47.0	完形	つぶし
3	123	〃	〃	3.1	13.6	1.2	46.0	〃	〃
4	124	12 住	〃	2.7	9.3	0.8	20.0	〃	摩耗
5	125	13 住	〃	5.6	8.8	1.4	69.0	〃	
6	126	〃	〃	5.0	8.6	1.0	51.0	〃	
7	127	16 住	〃	3.0	9.1	0.8	22.0	〃	
8	128	17住P ₂	ホルンフェルス	5.1	10.3	1.3	75.0	〃	つぶし
9	129	19 住	頁岩	4.7	10.0	1.3	70.0	〃	〃
10	130	5 S	〃	4.0	11.1	1.3	76.0	〃	
11	131	19 住	〃	4.7	7.9	1.0	44.0	〃	
12		〃	〃	4.2	(6.8)	0.5	(21.0)	片側欠	
13		14G	〃	(2.9)	(6.9)	0.5	(14.0)	一部のみ	
14		30G	〃	3.7	6.6	0.8	(22.0)	一部欠	

⑧ 大形石匙

1	132	21 住	頁岩	9.6	3.1	1.0	30.0	完形	挾部つぶし
---	-----	------	----	-----	-----	-----	------	----	-------

⑨ 磨製石斧

1	133	12 住	硬砂岩	(10.1)	5.2	3.5	(298.0)	上半欠	凹石に転用 未製品
2	134	〃	安山岩	(5.3)	(5.9)	(4.0)	(151.0)	刃部のみ	
3	135	14 住	頁岩	(4.8)	1.8	0.7	(10.0)	刃部欠	
4	136	21 住	硬砂岩	(7.7)	4.6	4.2	(212.0)	下半欠	
5	137	2 S	頁岩	(13.8)	3.1	2.4	(121.0)	先端欠	
6	138	41G	安山岩	(6.4)	3.6	3.5	(112.0)	基部のみ	

⑩ 凹石・磨石・敲石

1	139	4 住	細粒砂岩	8.9	8.3	4.3	449.0	完形	凹+磨+敲
2	140	13 住	〃	8.8	7.0	3.9	299.0	〃	〃
3	141	14住P ₃	〃	8.3	6.2	3.2	239.0	〃	〃
4	142	〃	頁岩	9.6	8.5	3.0	(399.0)	一部欠	凹+敲
5	143	17 住	細粒砂岩	8.2	7.3	3.0	271.0	完形	〃
6	144	19 住	〃	7.6	6.3	4.6	299.0	〃	凹+磨+敲
7	145	75S	〃	11.7	9.5	4.1	609.0	〃	〃
8	146	16G	礫岩	12.2	9.4	4.0	649.0	〃	〃
9	147	35G	安山岩	10.0	8.3	3.2	372.0	〃	〃
10	148	16G	細粒砂岩	8.7	8.5	5.1	551.0	〃	〃
11	149	26S	〃	12.0	9.6	4.3	663.0	〃	〃
12	150	4 住	〃	13.9	7.8	5.3	849.0	〃	凹+敲
13	151	6 住	〃	14.2	8.9	3.3	599.0	〃	〃
14	152	13 住	〃	13.0	9.3	5.5	760.0	〃	〃
15	153	14住P ₃	〃	13.0	9.7	4.0	748.0	〃	〃
16	154	19 住	〃	12.7	8.0	3.8	502.0	〃	〃
17	155	〃	〃	13.3	8.2	3.2	545.0	〃	〃
18	156	31G	〃	11.5	8.9	5.9	881.0	〃	凹+磨+敲
19	157	17G	〃	14.3	6.7	3.4	442.0	〃	凹+敲

⑩ 凹石・磨石・敲石

No	図No	出土地点	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備考
20	158	4 住	細粒砂岩	10.8	6.1	4.9	399.0	完形	凹+敲
21		6 住	〃	(5.9)	5.0	5.1	(186.0)	半欠	〃
22		7住焼土下P ₁	〃	(6.0)	5.7	4.1	(182.0)	〃	〃
23		〃	粗粒砂岩	(10.5)	8.4	4.6	(579.0)	〃	〃
24	159	14 住	〃	14.5	5.5	3.7	404.0	完形	〃
25	160	〃	頁岩	14.7	5.9	2.8	324.0	〃	〃
26	161	17住P ₂	硬砂岩	17.6	4.3	5.5	462.0	〃	〃
27	162	19住6	頁岩	18.1	5.1	2.5	379.0	〃	〃
28	163	6 住	細粒砂岩	8.5	4.0	3.0	134.0	〃	〃
29	164	19 住	〃	10.9	4.5	3.1	214.0	〃	凹+磨+敲
30	165	23G	〃	15.3	5.5	2.6	301.0	〃	凹+敲
31	166	6 住	〃	14.1	8.6	3.0	479.0	〃	〃
32	167	14 住	〃	9.5	6.1	3.2	289.0	〃	〃
33	168	30G	粗粒砂岩	14.0	7.1	3.1	401.0	〃	〃
34	169	16G	細粒砂岩	(12.0)	6.8	3.4	(419.0)	一部欠	〃
35	170	3 G	〃	12.9	4.9	3.7	451.0	完形	凹+磨+敲
36	171	1 住	珩岩	7.3	7.0	3.3	282.0	〃	磨+敲
37	172	8 G	硬砂岩	(7.0)	6.5	3.5	(209.0)	一部欠	〃
38	173	13 住	細粒砂岩	6.6	4.9	2.9	136.0	完形	〃
39		26G	〃	(7.4)	(2.4)	(3.6)	(82.0)	一部のみ	〃
40	174	3 G	頁岩	16.6	4.5	2.7	311.0	完形	〃
41	175	5 住	細粒砂岩	11.2	6.9	4.7	589.0	〃	磨
42	176	7 住	〃	5.9	4.9	2.5	101.0	〃	〃
43	177	44G	〃	5.9	5.3	2.7	111.0	〃	〃
44	178	63S	頁岩	8.5	7.4	5.9	548.0	〃	敲
45	179	1 住	硬砂岩	14.4	3.6	1.9	135.0	〃	〃
46	180	5 住	細粒砂岩	14.3	5.1	4.1	398.0	〃	〃
47	181	18 住	チャート	13.4	4.9	4.4	392.0	〃	〃
48	182	5 住	硬砂岩	10.4	5.1	3.2	267.0	半欠	〃
49	183	32G	頁岩	10.3	7.5	1.4	162.0	完形	〃
50	184	19 住	〃	14.8	4.7	3.7	422.0	〃	〃
51		8 住	細粒砂岩	(9.4)	4.6	4.0	(214.0)	半欠	〃
52		14 住	〃	8.4	6.9	5.4	420.0	完形	敲・原石?

⑪ 石 皿

1	185	4 住	安山岩	(10.3)	(9.2)	7.3	(709.0)	一部のみ	凹部
2	186	17住床直	礫岩	29.0	29.0	8.9	11500	完形	
3		67G	安山岩	(12.0)	(2.9)	(6.8)	(170.0)	一部のみ	

⑫ 多孔石

1	187	17 住	中粒砂岩	(22.0)	11.4	9.7	(2620)		凹+敲
---	-----	------	------	--------	------	-----	--------	--	-----

⑬ 砥石

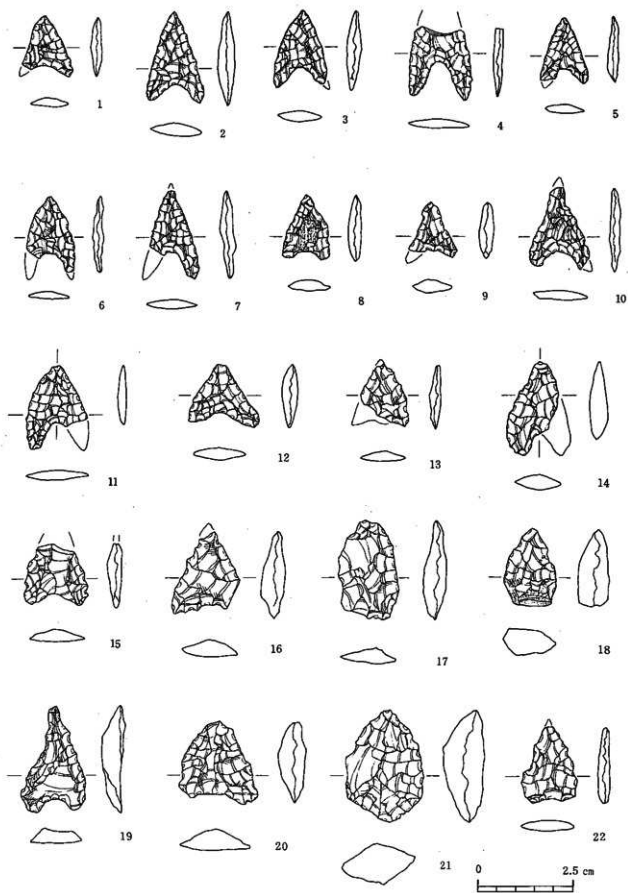
1	188	19 住	細粒砂岩	(6.3)	8.2	4.8	(215.0)	両端欠	
2	189	5 住	頁岩	6.2	5.4	0.5	27.0	完形	
3	190	7 住	〃	6.2	2.7	1.0	25.0	〃	

⑭ 石 棒

No	図 No	出土地点	石 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破損状況	備 考
1	193	7住焼土中	細粒砂岩	20.0	12.0	11.0	3540.0	完 形	

⑮ その他の石器

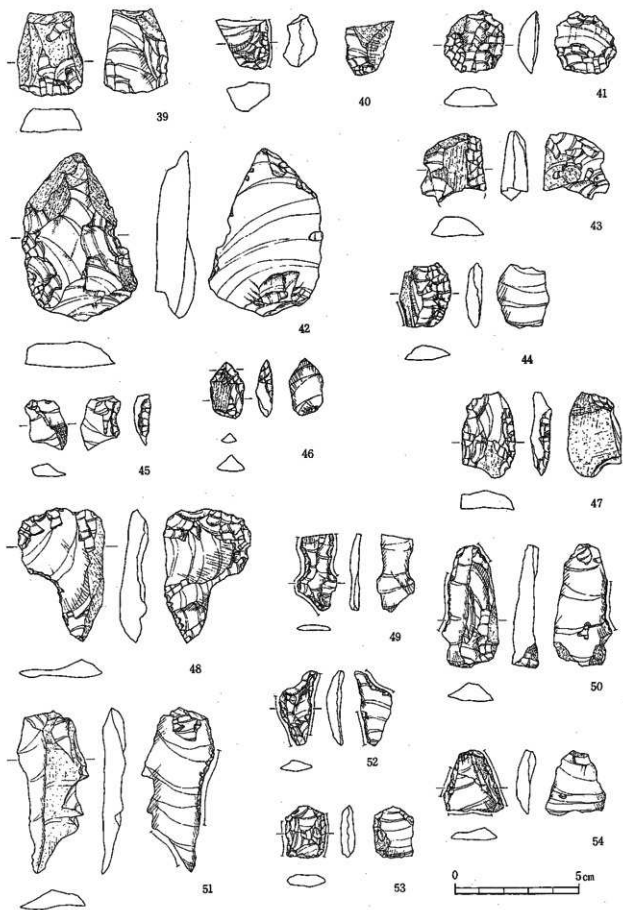
1	191	16 住	細粒砂岩	(14.5)	9.9	6.5	(1136)	欠 損	扶部作出
2	192	4 住	〃	18.9	12.7	10.5	3270.0	完形?	台 石
3	194	24G	凝灰岩	4.6	4.9	2.0	17.0	完 形	軽石製品
4	195	27G	硬砂岩	1.7	1.5	0.3	1.4	〃	全面研磨



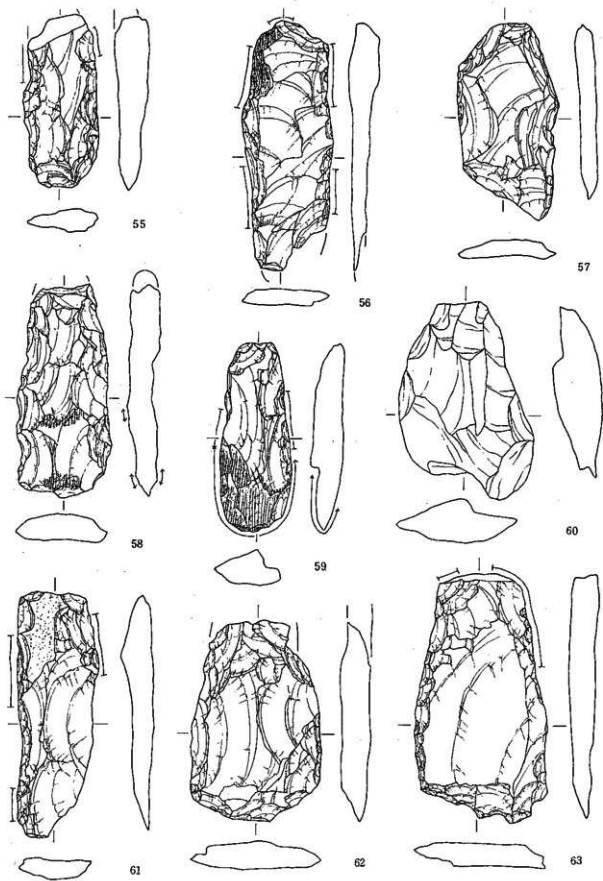
第24図 縄文時代の石器 (I)



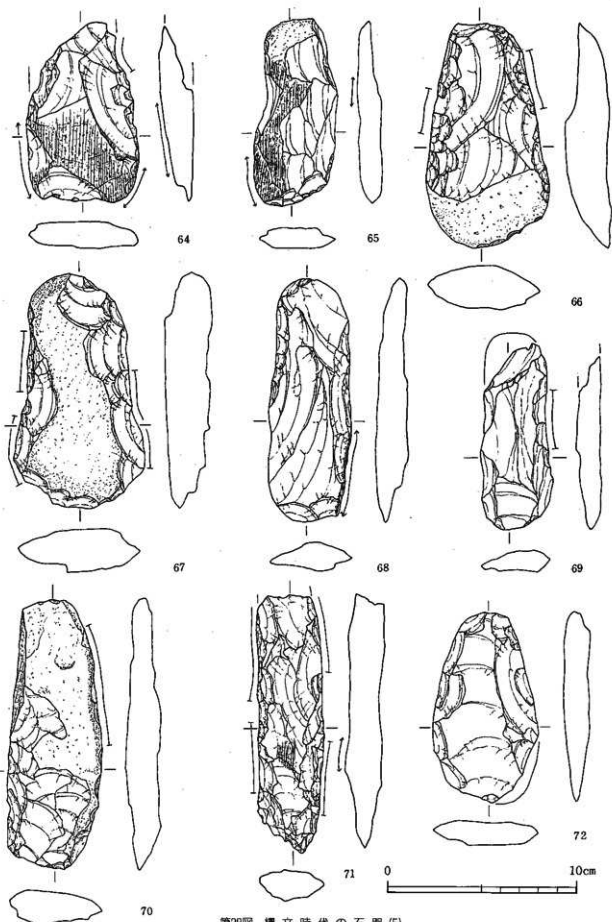
第25図 縄文時代の石器(2)



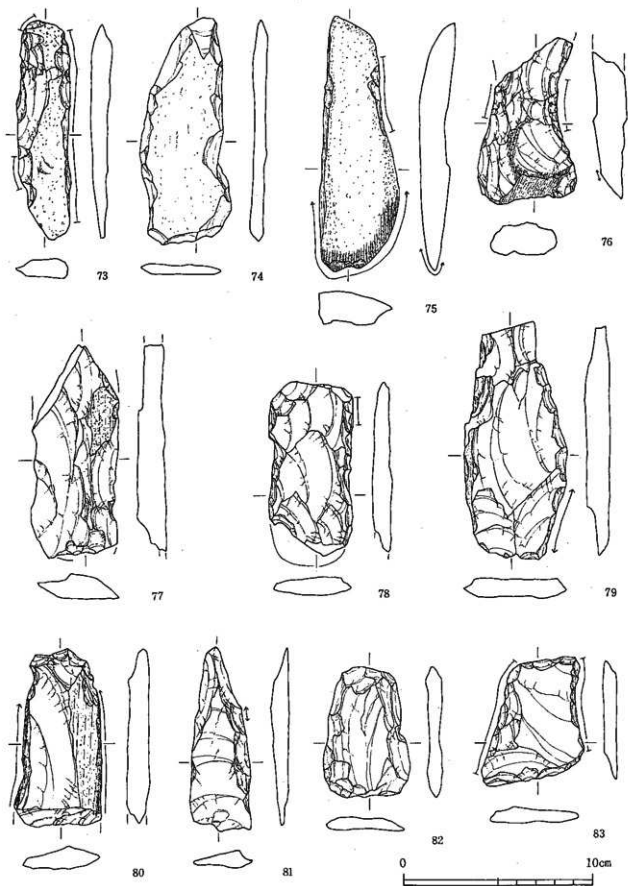
第26図 縄文時代の石器(3)



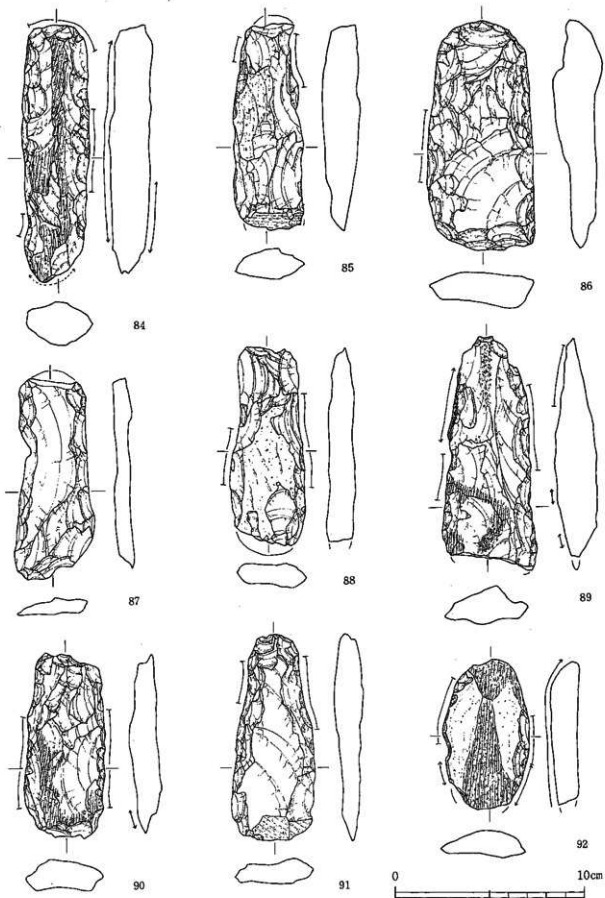
第27図 縄文時代の石器(4)



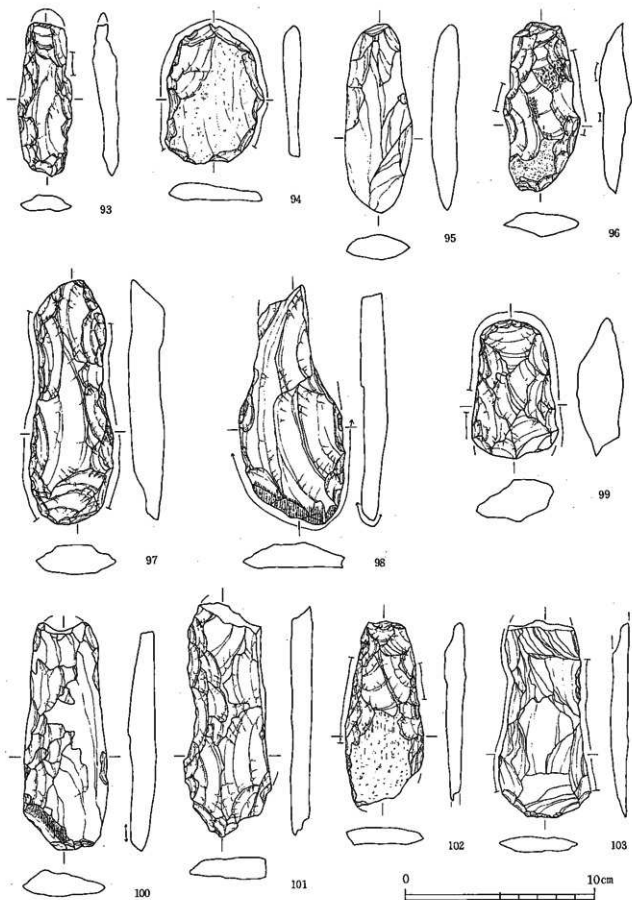
第28図 縄文時代の石器(5)



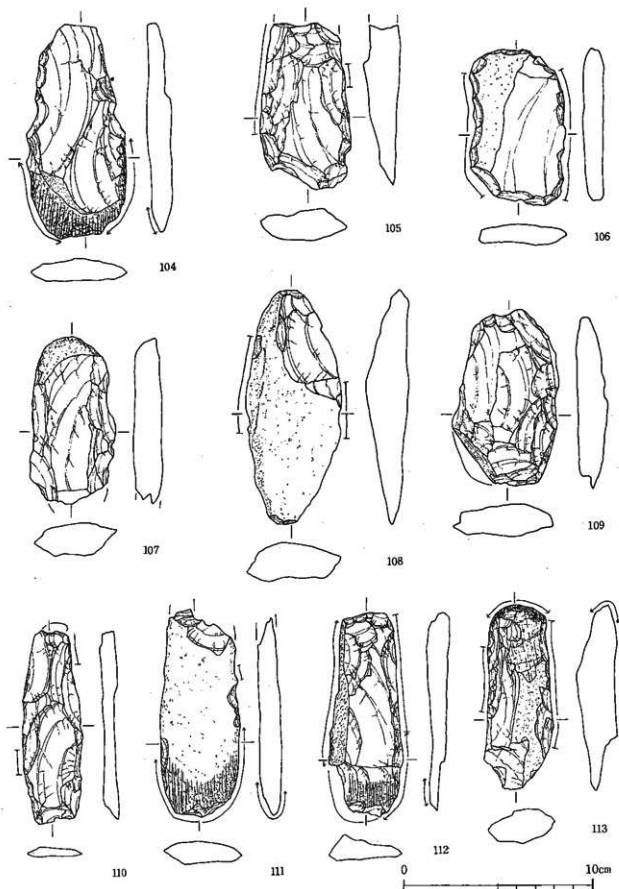
第29図 縄文時代の石器(6)



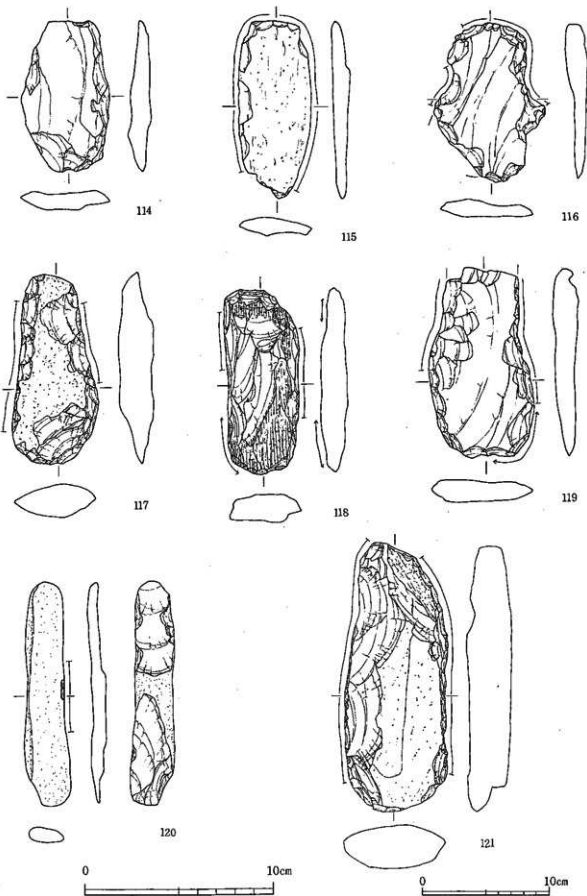
第30圖 彌文時代の石器(7)



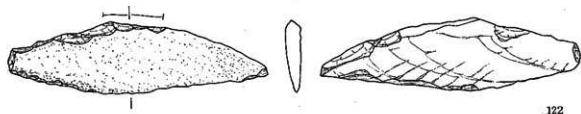
第31圖 縄文時代の石器(B)



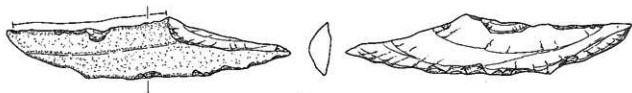
第32圖 彌文時代の石器(9)



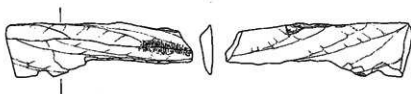
第33図 縄文時代の石器(Ⅱ)



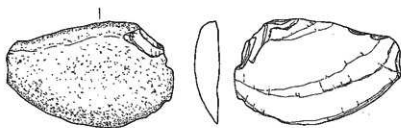
122



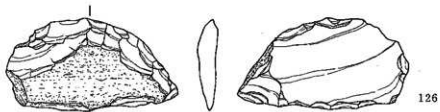
123



124



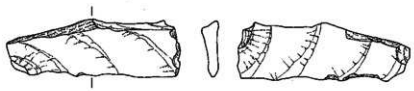
125



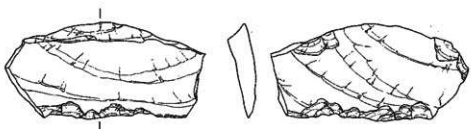
126



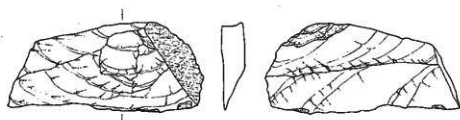
第34図 縄文時代の石器 (II)



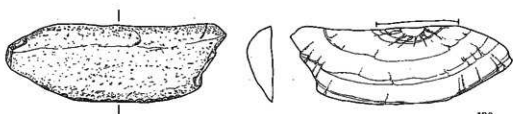
127



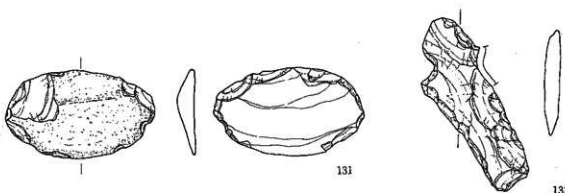
128



129



130



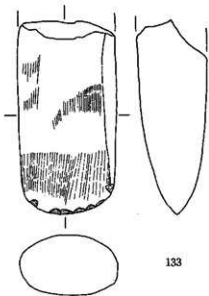
131



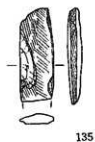
132



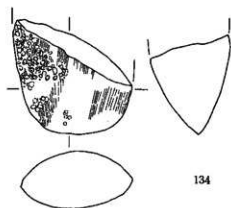
第35圖 縄文時代の石器(12)



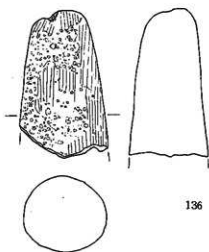
133



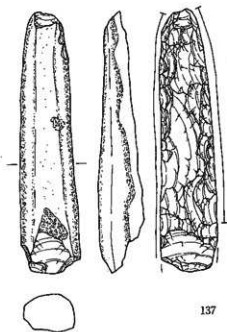
135



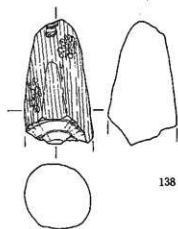
134



136



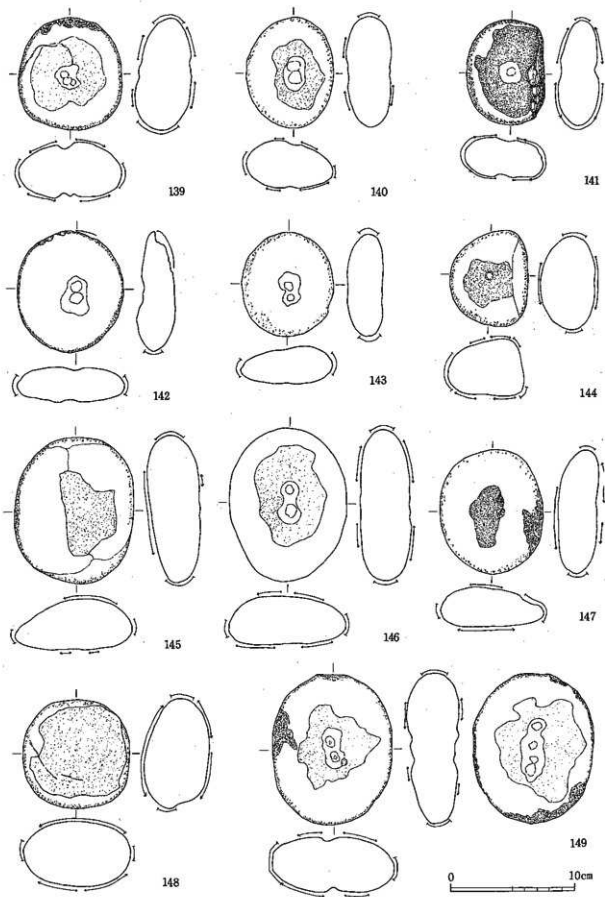
137



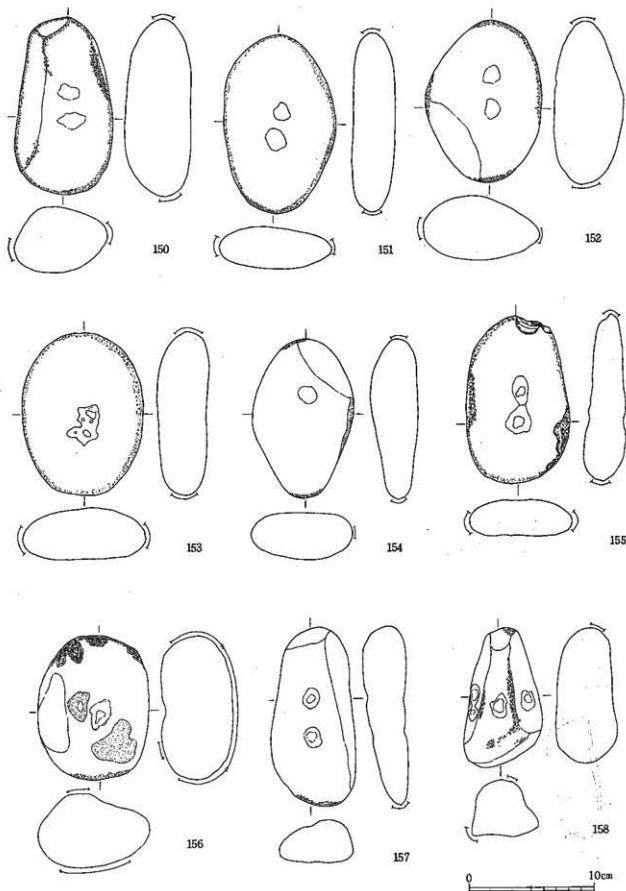
138



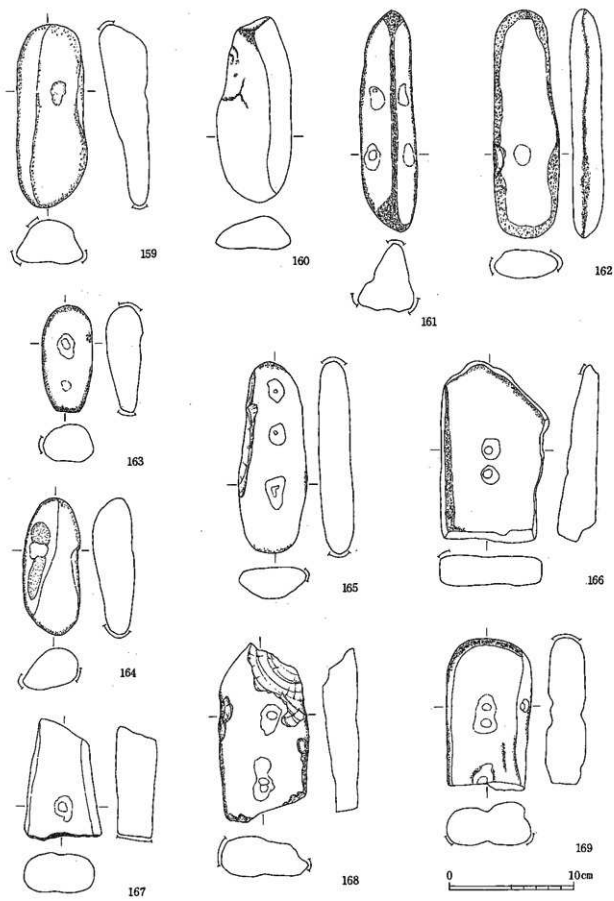
第36圖 縄文時代の石器(9)



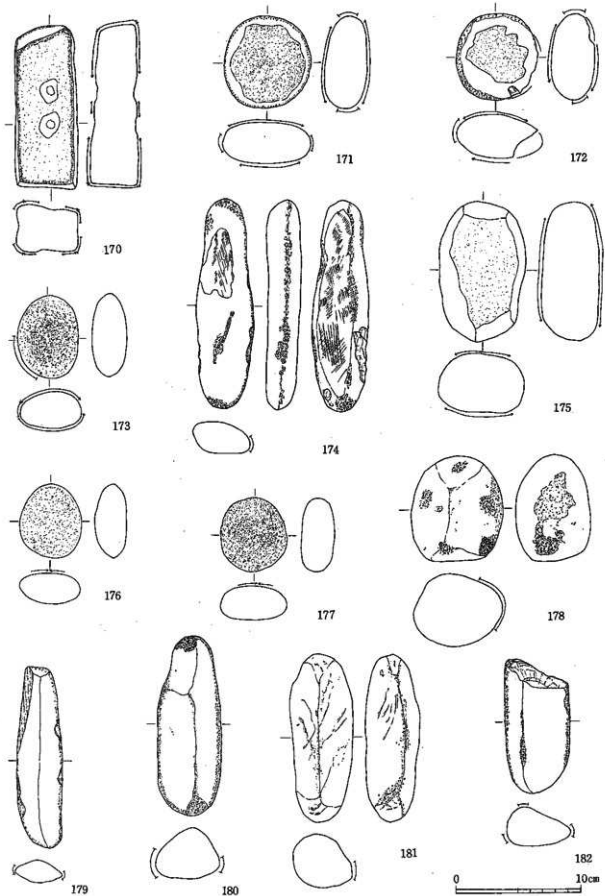
第37圖 縄文時代の石器(10)



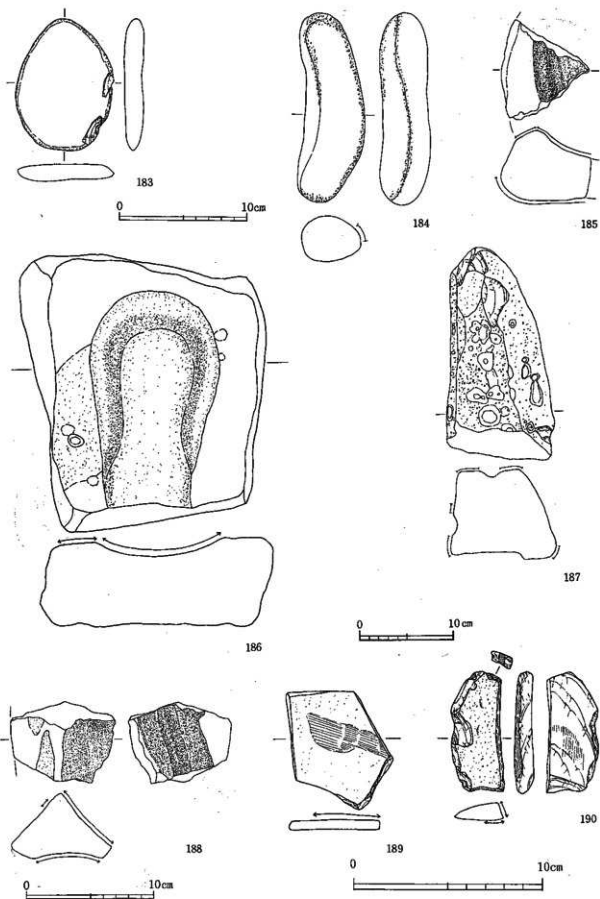
第38図 縄文時代の石器(9)



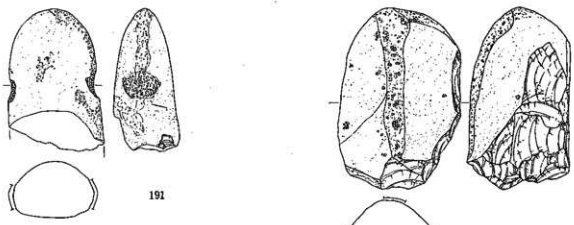
第39図 縄文時代の石器(1)



第40圖 縄文時代の石器(1)

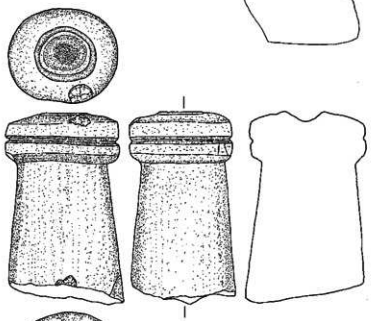


第41図 縄文時代の石器(8)

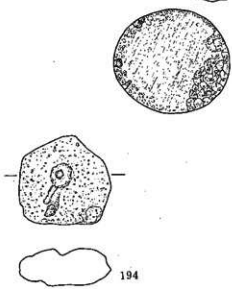


191

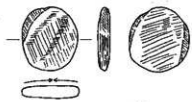
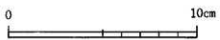
192



193

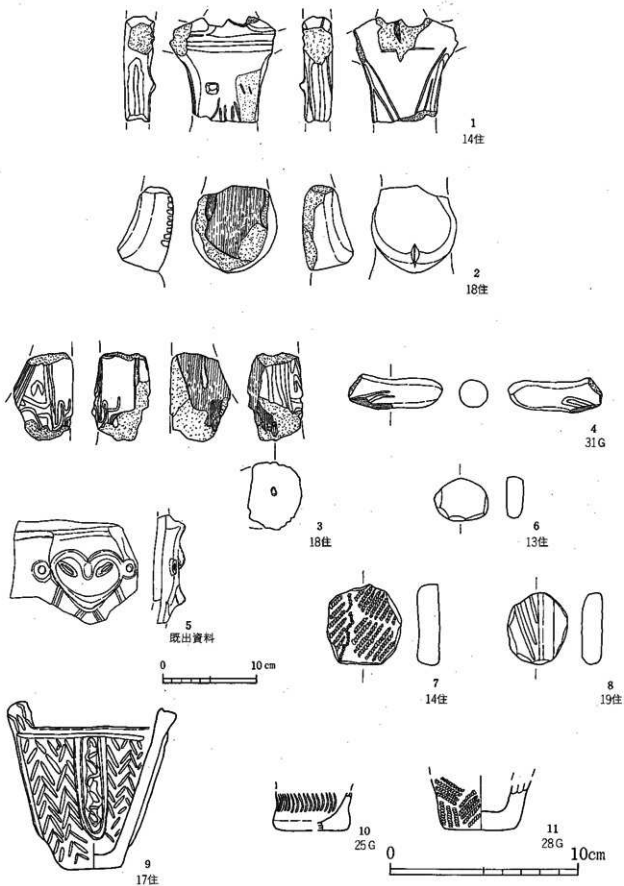


194



195

第42図 縄文時代の石器(個)



第43図 縄文時代の土製品実測図

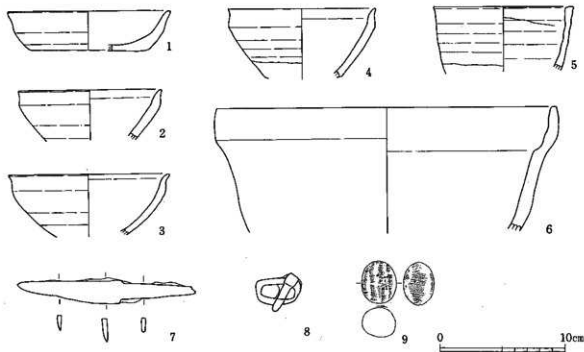
3. 中世の遺物 (第44図)

(1) 第1号住居址

1は、口径13.1cm、器高3.1cmのロクロ調整された土師器皿、2・3は瀬戸・美濃系の天目茶碗で黒褐色の鉄釉が内外面に施されている。この他に小片で図示できない多くの内耳鍋の破片や瀬戸美濃系大窯期前半の丸皿の底部などが出土している。1は15～16世紀、2と丸皿は16世紀前半、3は15世紀末の年代が与えられる。

(2) 第2号住居址

4は、古瀬戸後期様式の日目茶碗で、黒褐色の鉄釉が内面から外面腰部にかけて施されている。5は、古瀬戸の香炉で、口辺内部および外面腰部まで鉄釉が施されている。6は、口径27.1cmの内耳鍋で、体部はやや外反気味に立ち上がり、口辺部はやや内屈する。口辺内部には凹状の調整痕を1周残している。これらは15世紀の年代が与えられる。この他に13～14世紀の中津川産の捏鉢体部、16世紀前半の瀬戸美濃系大窯の丸碗底部、13～14世紀の龍泉窯青磁蓮弁文碗などが出土している。



第44図 中世遺物実測図

第Ⅳ章 調査のまとめ

床尾中央遺跡は、奈良井川左岸の扇状地に位置し、東西南方向を山に囲まれ、北は広漠たる桔梗ヶ原に続いている。山懐に抱かれたこの地は日照時間が少ないものの、背後の山あいの細流や湧水から水を得られ、縄文時代から古代・中世・現在に至るまで継続して集落が営まれてきた。

今回の調査地は山懐と前方に広がる桔梗ヶ原との境目にあたり、遺跡の西寄りの地域をトレンチ調査する恰好となった。その結果、縄文時代中期の住居址20軒、中世の住居址3軒、土坑155基、集石4基が発見された。

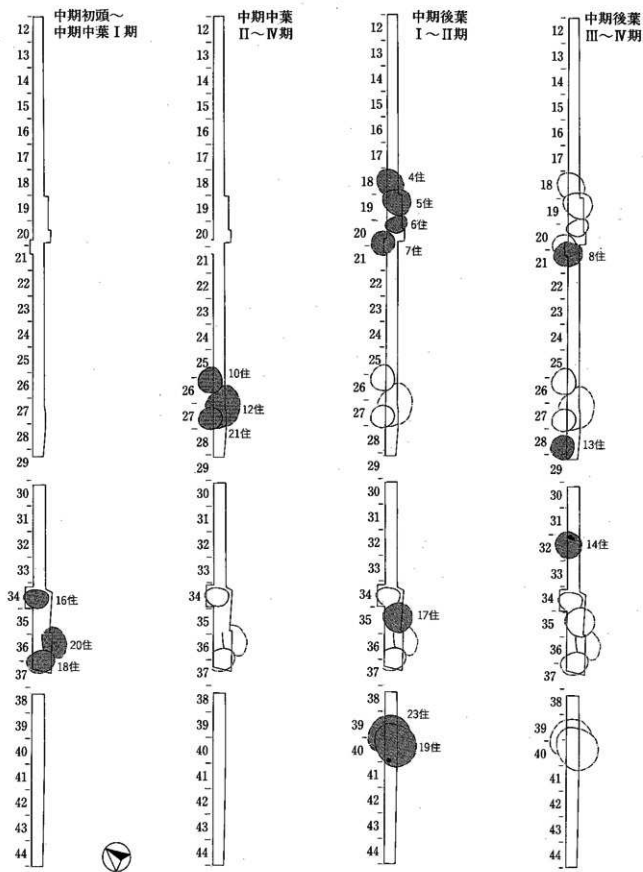
縄文中期の住居址は18グリッド以西に集中し、過去における付近の遺物発見例とも考え合わせると、かなり大規模な集落の存在を予想することができる。今回の調査では中期初頭から後期初頭の遺構・遺物が検出されており、中期の全時期にわたって集落が継続していたと考えられる。幅3mの調査では、集落の全体像を解明することはできないが、住居址の分布状況によって集落の一端を垣間見ることが可能と思われる。以下に集落の変遷を辿ってみたい。

検出された最も古い住居址は36グリッドの20号住居址で、中期初頭Ⅱ期に位置付けられる。次の中期中葉Ⅰ期(沼沢式期)では16・18号の2軒が20号に隣接して築かれ、居住域は踏襲される。中葉Ⅲ・Ⅳ期(藤内Ⅰ・Ⅱ式期)には25～28グリッドに10・12・21号の3軒の住居址が集中しており、居住域が東方に広がる。中葉Ⅴ・Ⅵ期(井戸尻式期)では、住居址が検出されず遺物も少なくなることから、調査区外に存在する住居址を考慮しても一時期集落が衰退したと考えられる。次期の中期後葉Ⅰ期になると18～21グリッドで4・6・7号の3軒が検出され、居住域が更に東方に広がる。これより東は15グリッドで検出された旧河川に向かって傾斜しているため、居住域には適しておらず、18グリッド付近が集落の東端と考えられる。後葉Ⅱ期は4軒が該当し、5号住居址は前時期の居住域を踏襲するが、残り3軒の17・19・23号は調査区西側に位置している。東西2つのまとまりに分けられ、両者には60mの空間が保たれている。その間には大小の土坑が数多く存在しており、中央広場と認識できるものである。後葉Ⅰ・Ⅱ期の最も栄えた時期は、中央に広場を持つ環状集落か馬蹄形集落が形成されていたと推定される。中葉Ⅲ・Ⅳ期は8・13・14号の3軒が該当する。居住域は中央付近に縮小し、住居数も減少する。続く後期の住居址は検出されなかったが、出土土器もあることから付近に遺構の存在が考えられる。

以上、推測も含めながら集落の変遷を概観した。中期初頭に集落が営まれ始め、一定のまとまりを持ちながら住居が築かれ、中期後葉のはじめにピークを迎えた後、中期末に至って集落が衰退したと考えられる。また、遺物も石棒をはじめ数多くの土器、石器が発見され、隣接する平出遺跡とともに縄文中期の拠点集落であることが明らかとなった。

縄文以降、古墳～平安時代は遺物がわずかに出土したのみで遺構の発見はないが、中世に至って3軒の住居址が検出された。15～16世紀に比定され、出土陶磁器とともに貴重な資料となった。

市道拡幅に伴うわずかな幅の調査であったため、作業も思うようにはかどらず苦労したが、予想以



第45図 縄文時代中期集落変遷図

上の成果を上げることができた。遺跡の保存状態もよく今後の調査に期待が持てると言える。

最後に、今回の調査を行うにあたって、地元地域関係者の皆様方並びに発掘に携わっていただいた方々に深く感謝申し上げる次第である。

報告書抄録

ふりがな	とこお ちゅうおういせき							
書名	床尾中央遺跡							
副書名	平成6年度交通安全施設等整備事業床尾平出線工事埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小口達志							
編集機関	塩尻市教育委員会							
所在地	〒399-07 長野県塩尻市大門七番町3番3号 TEL(0263)52-0280							
発行年月日	1995年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とこお ちゅうおういせき 床尾中央	長野県塩尻市 大字宗賀 字床尾	20215	150	36° 5' 30"	137° 55' 50"	19940414~ 19940525	350	交通安全施設等整備事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
床尾中央	集落跡	縄文中期 中世	竪穴住居址 20軒 土坑 竪穴住居址 3軒		縄文中期 土器 縄文中期 石器 中世陶磁器		縄文中期の拠点的 大集落の発見	



発掘調査前
(東側から)



発掘調査前
(西側から)



遺構検出作業



遺構検出作業

図版 2



調査区全景
(東側から)



調査区全景
(西側から)

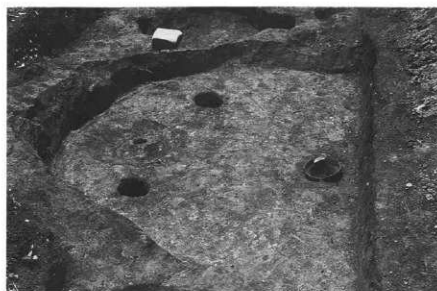


第1号住居址

第4号住居址



第16号住居址



第18号住居址





土坑群 (24・25グリッド)



土坑群 (26・27グリッド)



1号集石



3号(手前)・4号集石



第16号住居址炉体土器



第18号住居址炉体土器



第14号住居址埋壺



第19号住居址埋壺



第16号住居址土器出土状態



第17号住居址ミニチュア土器出土状態



第19号住居址土器出土状態



第19号住居址石匙出土状態



11グリッド縄文後期土器出土状態



第7号住居址焼土
(石棒出土前)

第7号住居址焼土
(石棒出土後)



石棒出土状態

発掘参加者



「床尾中央遺跡」

平成6年度交通安全施設等整備事業平出床尾線工事
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

平成7年3月25日 印刷
平成7年3月30日 発行

発行者 塩尻市教育委員会
印刷者 樹英巧堂印刷所

